

010.2
N77

010.2-N77ウ



1200500723188



始



エト7W 1

010.2

N77



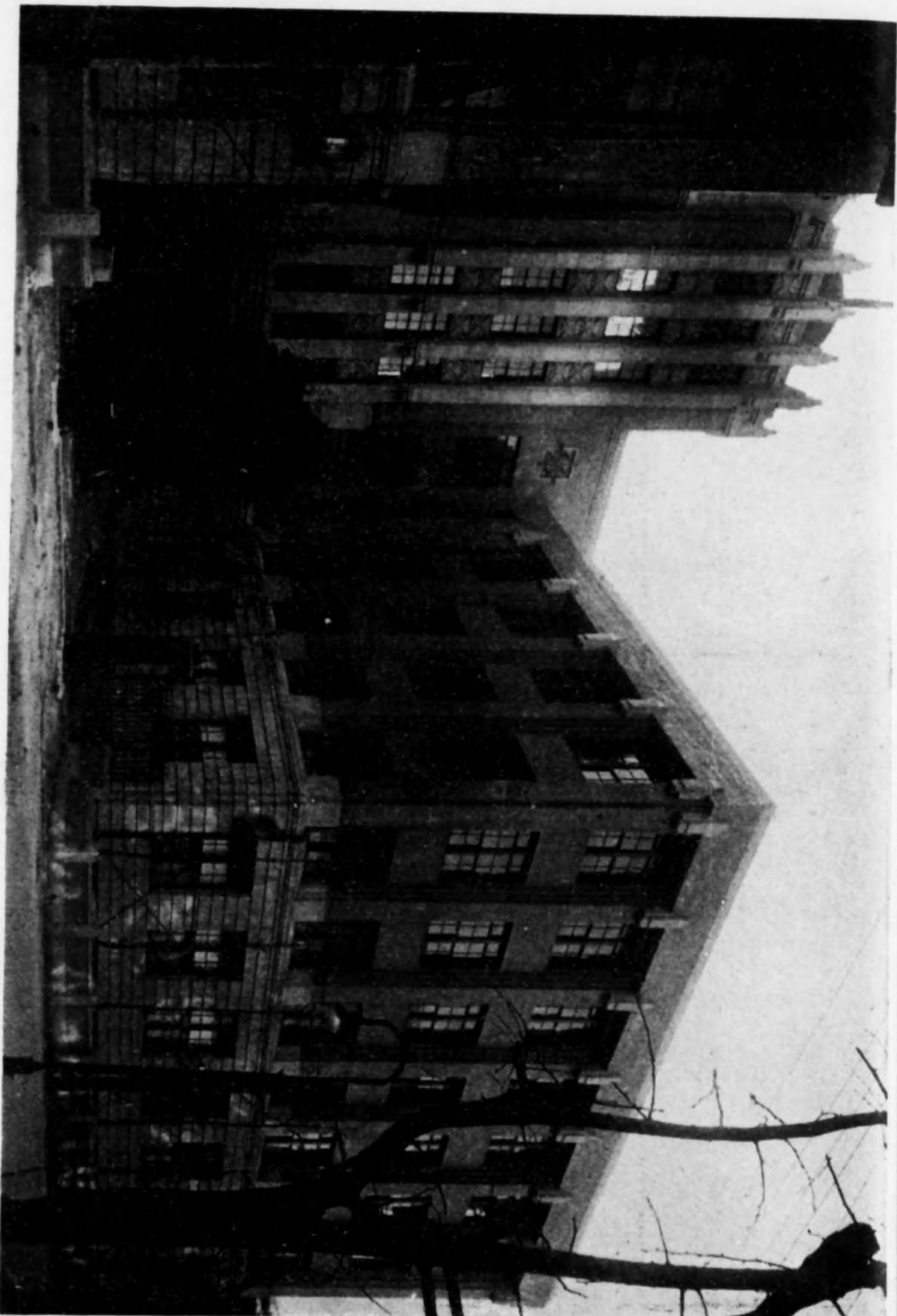
昭和十一年刊

館記

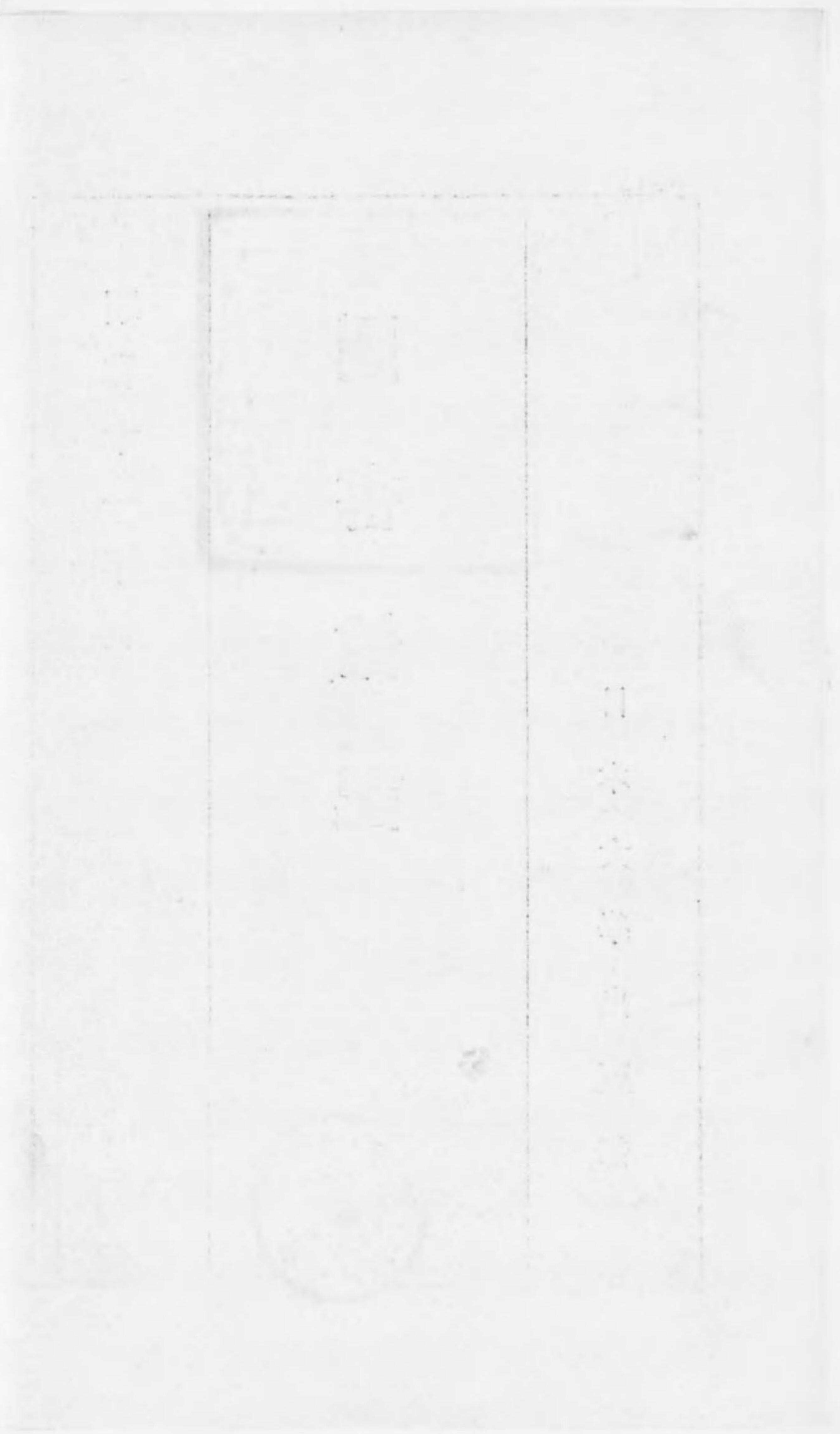
日本大學出版部

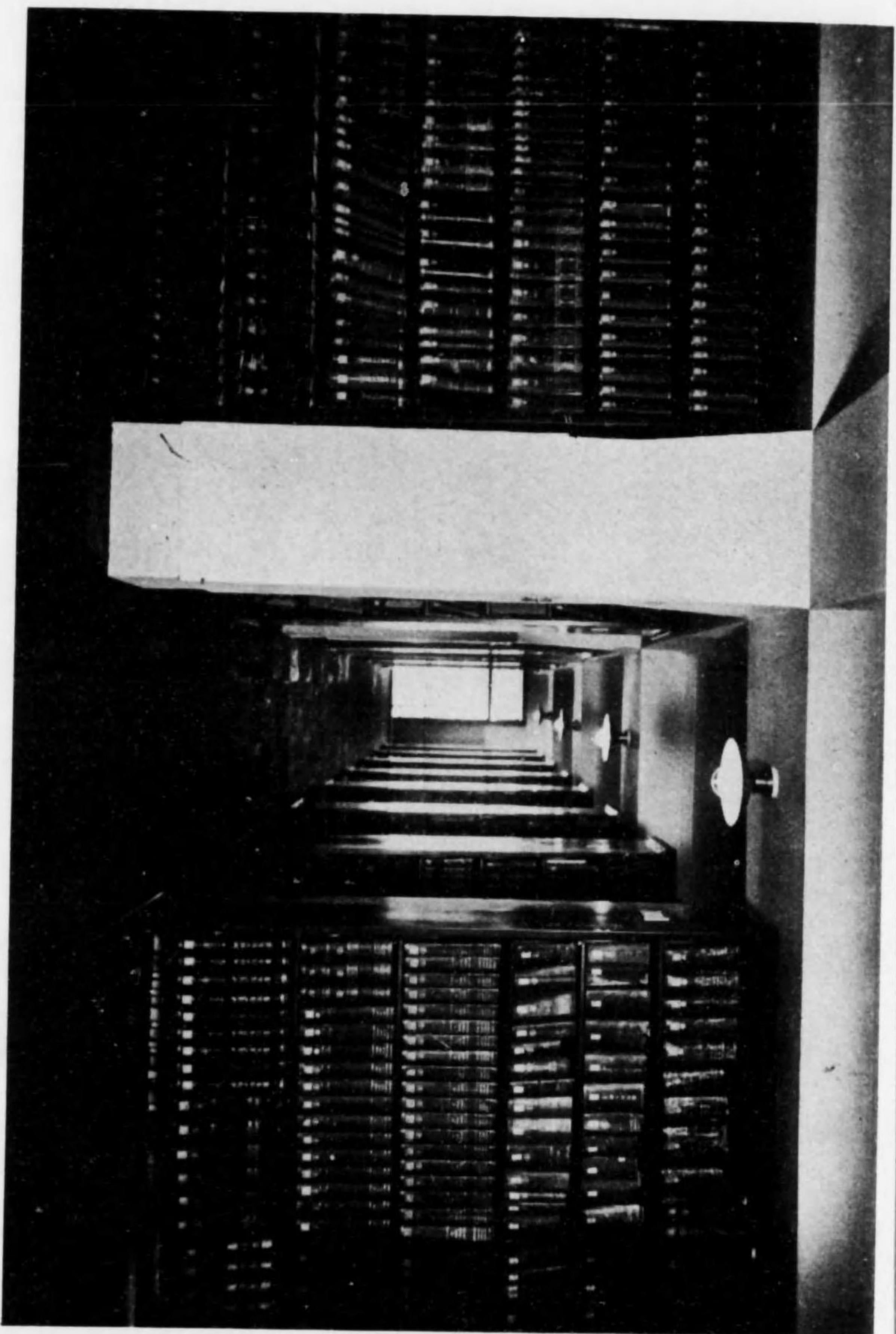
發行所寄贈本





日本大學圖書館正面





部内庫書館書圖學大本日



~~278-249~~ 11

序

皇道精神の發揚と共に、わが國に於る文運の隆昌蓋し今日より著しきはない。奈良朝、平安朝、降つて江戸時代に於る文化など何れも、わが民族の慢りでなければならぬ。それらの凡てを集成融合したものが、即ち今日の文化相である。試みに文教の部面に於て見んか、普通教育の普及と完備は殆んど世界屈指の状態に在る。更に大學教育に到つてはその設備全國に普く、年々新進の學徒を世に送つて居る。従つて學術の振興顯著にして毫も歐米諸國に遜色がない。然るに一步轉じて圖書館の現状を觀よ。誠に寒心に堪えない様である。之を歐米の夫と比較すれば殆んど問題にならない。要路の人々を始め一般人士に於ても閑却せられ、敢えて顧みるものがない。現代文化の盛運を見得たるは、寧ろ奇蹟と言ふべきであらう。わが大學創建せられて茲に年あり。將に五十年に垂んとす。さあれ往年關東大震災に依り、凡ては鳥有に歸した。再び灰燼のなかより起つて、學園の陣容整

序

一

備に忙殺せられるの他なかつた。図書館建設に對する積年の理想を抱きつゝも、遂に今日に及んだ。さき頃その新築漸く成り、多年の希願をば始めて具現するこ
とが出来た。斯る曉に及んで、東西の図書館につき、之を既往に顧み、現況に及びて
知り得た所は、餘りにも貧しき、わが國圖書館の姿である。そのくさくさの材料文
献等集め録したものが即ち本書である。文化に志ある士に關心を促し、進んで何
等かの参考ともなり得ば、我等望外の幸ひとする所である。

かく本當は、わが大學圖書館竣成を機として、早卒の間に編まれたので、もとより
その完きを保し得ない。粗漏誤謬などないとは言へない。難點の指摘は甘受し
なければならぬ。大方先覺の示教を俟つや切なるものがある。

昭和十一年二月一日

編者識

圖書館記

序 說

第一節 圖書館とは何ぞや……………一

第二節 大學と圖書館……………二

第一篇 圖書館の歴史

第一章 歐米に於ける圖書館史……………三

第一節 古代……………三

第二節 中世……………三

第三節 文藝復興以降……………三

第二章 支那に於ける圖書館史……………三

第一節 清以前の集藏と散佚……………三

目次

第二節 清代の「四庫全書」……………六

第三章 日本に於ける図書館史……………八

 第一節 上古時代……………八

 第二節 中古時代……………九

 第三節 近古時代……………九

第二篇 図書館の現況

第四章 歐米図書館の現況……………一〇七

 第一節 主要図書館の蔵書……………一〇七

 第二節 図書館の構造……………一〇五

 第三節 図書館の維持……………一〇〇

第五章 支那の図書館現況……………一〇三

第六章 日本の図書館現況……………一〇四

 第一節 公共図書館……………一〇四

 第二節 學校図書館……………一〇五

 第三節 日本大學図書館……………一〇四

第三篇 図書館の將來

第七章 図書館の新動向……………一〇七

文献表……………一〇五

序 説

第一節 圖書館とは何ぞや

ある哲學者は、人類と他動物との根本相違をば、思想の有無に見出さうとした。即ち一般動物は思想を有しないのに、人間には思想が有る。こゝに兩者の根本的な違ひが存すると云ふのである。思想などと云はないでも、極常識的なところで言葉、言語の有無に依つて兩者を分たれないだらうか。尤も人語を解する鳥や獸のある事など語られて居ないではないが、先づ言語の使用は人類に於ける特有の現象と云つて良いであらう。それ許りでなく人間は更に文字を創つた。この文字の發見こそは人類最大な創作だと云へやう。人間の歴史はこの文字に出發する。かゝる文字の創作はまことに古い。埃及に於ても最初にはやはり石器時代

を經過した。歴史の傳ふる處に依れば、この石器時代に於て既に酋長があつて、政治を行つた。早くから一種の太陽曆を用ゐた。年代記も作られた、と云ふ處から見れば石器時代に於て、早くも文字を有して居た事が解る。銅を用ゐる始めたのが紀元前四千年頃だと云はれる。世に有名なピラミッド時代は更にそれから千年も後の時代である。凡そ紀元前三千年から二千五百年に當る。果してさうであるとせば、餘程悠久な昔に、文字を發見して居たものである。

まことに彼等埃及民族は當時いかに優秀な民族であつたかが想像される。世界最古の人間歴史が彼等に依つて創られた事は、決して故なしとしない。この時代に於ける彼等の文字は、繪文字であつた。試みに發掘された埃及の墳墓に描かれて居る壁畫などを見よ。遊牧民が武器や家具を携へて移住して來る有様を、そこに見出すであらう。その上段には所々に繪文字が書いてある。久遠の昔に於ける民達が、之に依つて何かしらを我等に語つて居るもののやうである。思へば一種の神秘感さへ湧いて來る。併し古昔に於ける文字の發見は、獨り埃及民族許

りではなかつた。バビロニヤでは楔狀文字が用ゐられた。エウフラテス、チグリ、ス兩河口の地方を開拓したのが、スメル人とアツカド人であつた。楔狀文字を用ゐ始めて、文化を開いたのがスメル人である。アツカド人も亦之を採用した。紀元前二千百年頃シリヤから來たハムラビ王が、右の地方を征服した。バビロン市を首都として號令したのがバビロニヤ國と稱ばれる。この國と埃及とは、紀元前十四世紀の頃、外交的關係が密接であつた。十九世紀末、埃及で發見された楔狀文字の瓦札で、之が證明される。この瓦札が當時の外交文書であつた。

言葉は單なる音聲ではない。文字も亦只徒らなる模様ではない。そこに何かしらの意味がある。その中に含まれたる或る者が存する。その或る者、その意味こそ即ち思想である。新約全書の約翰傳第一章を繙けば、

『太初に言葉あり、ことばは神と偕にあり、言葉は即ち神なればなり。』

と書いてある。基督教神學の解釋が何であれ、我等はこの間に於ける「神」をば人の「精神」だと解する。つまり思想なのである。思想なき處に言語はない。又文

字はない。言語も文字も思想傳達の機關に他ならない。人に文字あり言葉ある事に依つて、人類の文化は進展し來つた。思想を有つて居るから、人間が他の動物と違ふのだと、云つた哲人の語はたしかに肯ける。文字が思想の表現であるにしても、只一つの文字だけでは書籍とはならぬ。幾多の文字の集る處に書籍を成すのである。かゝる書籍を無數に聚集したものが『圖書館』と稱ばれる。往時の圖書館は只單に圖書を藏して置く場所にすぎなかつた。然るに今日の圖書館はその機構も、職能も全く趣きを異にして來た。かくて茲に圖書館とは何ぞやと云ふ問題が起らざるを得ない。この問題に答へんとする學問が、即ち圖書館學(Bibliothekwissenschaft)であらう。

圖書館學と云へば最も混淆され易いものは、書誌學(Bibliographie)である。元來この書誌學も極めて曖昧な言葉であつた。書籍學、印刷學、製本學、分類學、又は目錄學、それに圖書館學などとの關係は、全く分明しない儘に説き去られて居た。それは是等各専門學が一科として、獨立し難い情勢に在つたから已むを得なかつたで

あらう。併し近年に至つて、急に是等の諸學が進歩し始めて、従前の如き曖昧なる説明で満足しなかつた。書誌學は書籍の歴史、材料及び解説に關する學問であるに反し、圖書館學は書籍の蒐集、保存、及び利用方法の學問である。従つて書籍の分類、目錄に關する事もこの學問中に包含される。前者に在つては、有りと凡ゆる書籍の各々の歴史を取扱ふ。だが圖書館に於ては、館内に集められた比較的少數の選擇書籍の配用、或は解説に限られるであらう。

次に『圖書館』自體の問題に移つらう。『圖書館とは何ぞや』の問に對しては、もとより様々な答が與へられる。一體圖書館なる語は、最も普通には希臘語の Bibliothēke と羅典語の Libraria などから來たものが用ゐられて居る。もとく Bibliothēke は場所を指し、Libraria は圖書を示して居たのである。近代語が羅典語を受繼いでから、羅典系の國語は Bibliotheca を圖書館として用ゐ、Libraria を書店に宛てゝ居た。之に反し、獨逸語では兩語とも圖書館と云ふ意味に使つて居た。ところが時の經つにつれて Bibliothek のみになつて了つた。英語に於ては之に反し

Libraryのみを用うるに至つた。佛蘭西ではBibliothèqueと稱んで居る。(註—Richard-son: Beginning of Libraries.)

圖書館の主要なる特質としては、多數書籍の蒐集と云ふ事が擧げられる。それに圖書の利用を没却してはならない。然し大抵は圖書館の主體として建物を認めるのが常である。勿論代表的の近代圖書館を擧げるならば、多くの圖書完備せる個々の建築物、圖書館長等を籠めたものである。それだから、よし圖書は少くても場所は一室であつて加ふるに一櫃一函、極端に云ふと、一つの棚しかなくとも、その書籍の所有者が同時に保存者であつて、その保存が賣らんがためではなく、只利用を目的とする者であるなら、夫は直ちに圖書館と云ひ得る。圖書の數量には、何等の關係はない。決定的の事實は賣らんが爲めでなく、利用されんが爲めである。數個の細胞からなる植物も、植物には相違ひない。だから數冊の圖書からなる圖書館と、多數の蒐集と多くの文部とを有する紐育のバブリックライブラリとを比較しても、それは圖書館本質の問題には變りはない。従つて圖書が利用だにされて

あるならば、圖書が何から作られて居やうと構はない。木から造られて居やうと石から造られて居やうと、又は金屬、粘土、犢皮紙乃至紙から造られて居やうと、或は折り疊まれた記録であらうと、寫本であらうと構はない。文學的著述であらうが、政廳或は事務上の記録であらうが、それ等は敢へて問ふ處ではない。

亞米利加のリチャドソンと云ふ人は圖書館學では知られた學者である。殊に古代圖書館の歴史に造詣が深い。彼のその方面に關する著作に依ると、ノアの大洪水以前に圖書館が存在して居たと云つてゐる。比較心理學や比較神話學等に依る近代的研究の結果、アダム以前の圖書館の確實なる存在が信ぜられると云ふのだ。尤もそれを年代的に云ふと紀元前約六千萬年前に遡らねばならぬのださうだ。餘り遠くて夢のやうにも思はれるが、我等の興味を索ひて已まない。ノアの大洪水以前の圖書館と云ふ語のなかには、神々の圖書館、動物や植物の圖書館、族長等の圖書館などが意味されて居る。なかでも一番古いのは神々の圖書館だと云ふのだ。印度、埃及、バビロニア、ペルシヤ、希臘、スカンヂナビヤの大神族の間には、

各々彼等神々自身の用に充つるために、圖書の蒐集が存在して居たと傳へられる。即ち幾多の宗教の傳ふる處に依れば、人類創造以前に圖書の蒐集が行はれた。否猶太教では宇宙創造の前に、夫れがあつたと傳へて居る。吠陀經典では造物主が彼自身を創造する前に、圖書を蒐集したと云ふ。コーランは、かやうな圖書の蒐集が、創造を超越した神々と永遠に共存して居たと主張するのである。有形的な凡ての創造神は、凡べて、それ自身が圖書館の權化であると、神話學者は認めるのである。つまり考へやうに依れば、宇宙の森羅萬象は凡べて圖書館であると云はれやう。古代バビロニヤ人に取つては、天の星は天地の祕密と、人間の運命を語り得る圖書であつた。かくて蒼天は天體的の額(Tables)であつた。之をば良い加減なお伽嘶と考へてはならない。蓋しかゝる信念から、考星學なるものが生れた。是に基いて世上の判斷がなされた。王達の行爲を左右した。延ひては人類政治史の上に迄影響を與へた。未來の現象に對する神意や、含蓄をば、人間が理解し得ると云ふからには、それが人事現象に、支配的勢力を持たないで居なかつたであらう。

以上述べたやうな次第で圖書館の本質や機能が、所謂参考圖書館(Reference Library)である事に異論はあるまい。それを利用し参考とする範圍に依つて大別して、

公共圖書館

學校圖書館

に分たるであらう。又参考内容や蒐集圖書の専門如何に依つて

實業圖書館

市政圖書館

音樂圖書館

等々に特殊化する事が出来るであらう。否次第にかく専門化特殊化するものが、近代の著しい傾向であると云はれる。以上のうち公共圖書館とは云ふ迄もなく、一般社會大衆の参考利用を目標とするものである。身體を養ふために食欲が人間必至の本能であるやうに、精神生活の營養として、知識欲が本能的に又人間を動かす。知識欲を満すために、觀察、實驗、探檢等と共に重要にして、缺く可らざるものは

讀書である。

讀書欲の盛な人は知識欲の旺盛を語る。それだから圖書出版の多い社會は、文化向上の著しさを示す譯である。併しながら知識欲が盛であつても、凡ての人が凡ての書籍を読む譯には行かない。又多くの人が汗牛充棟にも蓄ならざる出版を貯蔵する事は出来ないし、又その必要もないであらう。かゝる必要から社會施設としての圖書館の出現を見た譯であつた。されば社會的設備としての圖書館の使命は云はずして明かである。即ち何よりも社會一般の知識欲を満たすのが最大の眼目でなければならぬ。又彼等の感情や趣味を養はしめるために、凡ゆる圖書を集めなくてはならぬ。云はゞ上水道の水源池である。圖書館は只圖書の蒐集で、事足りた時代もあつた。現代では先づ供給を念としなければならぬ許りでなく、大衆の讀書欲に對して、その良き指導者、相談相手とならねばならぬ。さすれば圖書館は、一般讀書欲、知識欲の氣象臺でもあり、觀測所でもあるだらう。大衆はかくて、出版者の廣告を便つて、手當り次第に新刊の書を購入代りに、圖書館

で實物を先づ見るであらう。類書と比較考慮も試みるであらう。又は圖書館當局に相談する場合もあらう。姉崎博士圖書館の社會的使命(註)―圖書館雜誌一三三(參照)

かやうにして社會的使命を果す圖書館は、現代社會に於て、知識の水平運動に於ける先驅者と云ふ可きである。蓋し往時に在つては圖書の貯蔵は、貴族階級に限られた特權であつた。知識の獨占は貴族の名譽心を満足させるにすぎなかつた。だのに圖書館は凡ゆる知識の源泉をば、一切自由に且つ平等に、普遍化しなければ已まない。凡そ知識の普及は現代文化の一大特色であるが、圖書館はその普及のために、最も活潑なる融通供給の機關なのである。我等は進んで、大學圖書館の意義を考へて見度い。

第二節 大學と大學圖書館

既にして人間は言葉を持つた。文字を持つた。その言葉、その文字の背後には

人間の意志が潜んで居る。感情が潜んで居る。即ち彼等は思想を持つて居た。是を或は精神とも稱ばうし、又神とさへも云はれやう。かゝる人間の思想感情は遂に歴史を作つた。人間は只食ひ、只眠つて許りは居なかつた。營々致々たる人類の動きは、單なる本能ではなかつた。ひたすらな衝動でもなかつた。そこに何かしらの意味があつた。人類の歴史とは畢竟するに人間の所産であり、又彼等の働きや動きの記録なのである。彼等の活ける精神生活の鏡である。人之を呼んで文化の塔と云ふ。人として人の有つ心の結晶なのである。

こゝで我等は北歐の作家にイブセンの作物を顧み度い。彼の劇作物のなかに『ブランド』なる一篇があつた。ブランドと云ふのは、その戯曲の主人公の名である。彼は北歐の去る寒村の貧しき一牧師であつた。妻もあり、子もあつた。彼に只一つの願ひがあつた。村は土地荒廢して疲弊の極に在る。農民達が時の流行の株に手を出して、借金が殖えて始末に終ないと云ふのではない。もと／＼石と岩ばかりの土地で、耕耘の餘地が最初から與へられてない。村の貧しきは當然す

ぎた。かゝる窮乏のところ、教會らしい教會がある筈もない。ブランドはそんな處の牧師であつた。彼の願ひと云ふのが、この岩根こゞしき上に、素晴らしい神の教會を打建てんとするに在つた。その希願の前には、妻何者ぞと思つた。子供さへ要らぬと考へた。そんな私の感情や、個人的な愛着は捨てねばと覺悟した。只意志だ、意志だと考ふるのだつた。こんな考へ方の是非を、今こゝで論ずる必要はない。荒れた土地に、神の御國を建立せんとする崇高な彼の心事や、態度を想ひみれば足りる。これこそ文化王國の建設の雄々しき姿である。

かゝる境地に文化の花は咲くのである。人間の文化なる記念の塔は、正しく血涙の文字を以て建てられる事が、理解されるであらう。心理學者に依ると人間の心は、三つの部面に分たれると云ふのだ。知—情—意が即ちそれである。凡そ人間の心なるものは現状をもつて満足しない。より良き世界、より高いものを望んで已まぬ。つまりそれが、あこがれと稱ばれ、或は目的と云はれ、乃至理想と稱せられる。知識の求めるものが眞理なのである。眞理を希求したればこそ、學問とな

つて現はれた。感情の憧憬する國をば美と名づけられる。美を追求する人間の感情は、遂に藝術を創作した。意志は只まつしぐらに善を理想として已まない。そこに道德の王國が具現する。右の眞善美を以て文化的理想、或は文化的價值と稱せられる。

かやうな學問、道德、藝術等の如く、人間理想の結晶として現はれるものを文化とは云ふ。人間の已むに已まれぬ憧憬や理想や目的に向つて健闘する。そこに文化生活があるのだ。文化生活とは努力精進の生活に他ならぬ。國家にしてもさうである。かゝる努力、かかる精進の處としては道場がなくてはならぬ。舞臺がなくては出来ない。文化建立の道場、乃至舞臺が國家である。血を同じうし、言葉を同じうするもの、相寄り相助けて築き上げたものを國家となす。國家なくんば文化はない。猶太人には富めるものがあるか知れぬ。併し彼等の國を何處に尋ねる術もない。猶太の文化が求む可くもない所以である。

人類生活と文化との關係かくの如きものである。又文化と國家との交渉も理

解されたであらう。然らば一體文化と大學とはどんな關係を有つものであるか。我等の筆は自然そこに進まざるを得ない。人間の精神が在るが儘なる姿で満足しない。かくてより高きものを求むでは高いもの、よりよきものとは一體何であるか。高いものを求めて進みながら、案外低い方に行く事はないか。よりよきものと儼かれながら、劣悪なもので獨り良がりを決めてる事はないか。

それだから文化が人間必至の世界であるなら、それだけ、之に方向を與へる事が肝要になつて來やう。文化生活の方向付けが最緊要になつて來る譯だ。機關車にしても旗振りがなくては動かない。文化に於る學問は、かゝる役割を果すのではないだらうか。古代希臘華かなる頃哲人ソクラテス (Socrates, 469—399, B. C.) が現はれた。彼の觀る處では人類の最大事は徳を樹つるに在つた。この徳の何であるかを知り、善の何であるかを知るためには、眞知、まことの知識を得なければならぬとした。彼にとつてそれが即ち哲學の任務なのであつた。プラトーン (Plato, 429—348, B. C.) は彼の門下であつた。プラトーンに依ると、その師ソクラテスの流を

汲んで、やはり人間の最大の務めとして徳を積みねばならぬのだつた。國家は即ち道徳を實踐窮行する道場なのである。こゝから彼の哲人支配説なる哲人主義が生れ出た。

『哲人支配するか、若しくは支配者哲人たるかに非らずんば、人類惡絶滅の日は遂になからん』と云ふのが彼の有名な言葉である。こゝに哲人と云ふのは必ずしも哲學者を意味しない。賢者と云つた程のものである。つまり人間の指導的地位にあるものは、賢者でなければならぬ。知慧を持つて居るべきだ。かくて人生の方向を定めるものは正しき知見である。この知見を授けるものが學問に他ならぬ。されば知識至上、理性萬能の時代が出現したのも無理はない。十六七世紀の啓蒙期(Enlightenment, Aufklärung)と云ふのが夫である。よくこの時代の思想を示すものとして、『知は力なり』との言葉を我等は見出すであらう。英國はフランシスベーコン(Francis Bacon, 1561—1626)の文句である。彼に於て力とは自然の征服を意味する。北極を探検するとか、天空を摩する高層建築を建てるとか、倫

教の音楽を居ながらにして楽しむとかなど、總て彼に依れば自然の征服であつた。又彼の云ふ、知とは經驗知なのである。凡て經驗に依つて得られたる知識を意味する。

かくて經驗知が専ら主んぜられて來た。之に依つて實驗科學が異常なる發展を示すに至つた。近代自然科學の勃興は、かゝる處に由來する。近代工藝の發展がその止まるところを知らない有様なのは、かゝる思潮に出發する。

觀來れば、知識や學問の人生に於る使命、文化に於て有する位置のいかに重大なるかは、十分理解されるであらう。かゝる知能を磨き、學問の蘊奥を究むる處として、大學を措いて外にはない。即ち大學は邊際を知らぬ眞理の林に分け入つて、宇宙森羅萬象の實相を闡明しようとして云ふのである。かくして得たる知識知見を整理し、組織し、體系付ける處なのだ。つまり文化の最高機關を以て任ずるのである。

それだから圖書館がもし知識の泉、思想の寶庫だと云ふならば、大學に於る圖書館の重要性は、言はずして既に明かではないだらうか。よしや圖書館は公共のも

のとなり、民衆知識普及のため不可欠なものとなせば、それに深き意味はある。併し図書館本来の意味から云ふならば、もとく大學のものであるべき筈だ。眞理の忠僕たる學徒が集るところの大學に用ゐられてこそ図書館は、その全き使命を果すであらう。そこにこそ図書館の光榮は輝しいものがあらう。歐米に於る図書館の發達が、常に大學と消長を一にして居るのは、決して謂はれない事ではない。兩者は必然共同の運命を擔ふものなのだ。嘗てプリンストン大學の新設大學圖書館開館式に於てギルマン總長は述べて曰く、『大學圖書館は大學の心臓である。もし心臓が虚弱であれば他の凡ての機關の機能はにぶる。もし心臓が強かつたら、潑刺として躍るであらう』と。まことに至言でこる。

第一篇 圖書館の歴史

第一章 歐米に於ける圖書館史



代

圖書館の歴史は極めて古い。夙に埃及人は多數の書を集めて居た。否もつともつと翹る事が出来るであらう。前に一寸神々の圖書館に就いて觸れたが、文獻的に之は明示され得るのである。最も有名なものとして二つある。即ちブラマとオーヂンのものが夫れである。トオースの圖書館も同じく有名であるが見方に依つては前二者よりも更に勝れたものであつた。などリチャドソンなどは云つて居る。ブラマの圖書館は、實際多數の著述を集めて居た。吠陀經典はその主なるものである。之等は全能なるブラマの記憶の中に存して居たと傳へられる。近時に及んで、古代サンスクリットの著述家カルラバッタに依つて近代語に譯され

た。この圖書館は、ある範圍を限つて、記號を用ゐて居た分類的圖書館の代表的のものとして、世人の注意を引いて居た。

この圖書館は別々の出口をもつた個々の室に、特殊の蒐集を保管して居る。全く最新式のものである。只參考圖書館である許りでなく、圖書の帶出も行はれて居たと云ふ事だ。ブラマの圖書館は種々な形で顯はされて居る。例へば牝牛神の乳とか、或はソーマ草の液とかに依つて、同じやうにオーデンの蒐集も様々の形に現はれて居る。例へば山羊ハイドラムの乳とか、或は記憶の泉とか、又は知識の樹の果とか、乃至イデウナの林檎や、聰明なるキューパーサの血液とかに依つて居る。之れは最上の密酒と同一體である圖書であつて、神々の不滅性を現はし、之なくしては彼等は亡びに至るであらうと、キューパーサの物語に語られて居る。キューパーサーとは彼等の信ずる處に依れば、諸神中最も聰明なものである。彼を死に陥れた一寸法師は、彼が自分の知識のために溺れたやうに云ひふらしたが、實のところ彼の血液とも云ふべき自分の知識を奪はんがために殺したものであつた。

た。血液は興奮劑オドレーラーと呼ぶ瓶に入れられて、蜜と混じ、心をこめて壺の中に蓄へられた。壺の蜜酒を味へば、凡庸なる人間も詩人たり、學者たり得ると云ふので、蜜酒は神や詩人の命を若返へらすためにのみ蓄へられ、人類には惜しまれた。

オーデンが逃げて將に追附かれやうとした時に、知識の要素の數滴をこぼした。この僅かなる滴りをば、人類が取り上げたので、地上に惡詩人の徒輩が生じたと言はれて居る。かゝる知識の瓶詰を集める事などが、明かに今日の圖書館を意味する。凡ての神話作者は殆んど皆云ひ合はしたやうに、知識を飲食物として表現して居るのも、極めて興味深い事である。往古に於て、酒、油、穀物などが瓶に入れられて、倉庫に保存されたやうに、クレータブレットやバビラスの如き巻物も、土製の瓶に入れて蓄へられたと云ふ事實を語つて居る。印度のリーマ、ベルシヤのハオーマ、スカンチナビヤの蜜酒など、古代に於ける神々の飲食物はその一つ々々が何であつたか、之を描いて問はなくも、皆知識や乃至は不滅なる精神的生命の具象化せ

るものであつた。それら飲食物の倉庫見たいなものを圖書館と見るのはあながち不當ではあるまい。

古代から圖書館は人類の記録として留められた諸々の經驗の倉庫として存在して居た。其最初の蒐集は、主として宗教的及び政治的な諸記録中から集められたものである。エウフラテス、チグリエの邊りにあつたスマル人が多くの王國を建て、既に楔狀文字を用ゐたのは、前にのべた。最近の諸發見に依つて、彼等は夫に止らず、圖書館すらも持つて居た事が、瓦版の記録に残つて居る。アツカードはスマル人に對立して、この兩河の沿岸に國をなした民族であつた。この民族も亦、史家に依ればその支配者達は、紀元前三八〇〇年の前に圖書館を建て、居る。パピロニア國は右兩民族に代り、シリアから來てハムラビ王の建てた王國である。當時既に埃及と通商交易をなした事も、前に述べた。このパピロニアは紀元前二十世紀東方から侵入して、ハムラビ統の王朝を滅ぼしたカツサイド人の王朝に盡して居た。然るに埃及王はパピロニアから妃を迎へた。これらの事實はかの瓦札

で明かになつた。それ許りでないパピロニア國に於ても、主なる諸々の都市には、立派な圖書館が建てられて居た。このパピロニアを屬領にしたカツサイド人が、元來半開民族であつたので、只僅かに北方のアリヤン人の馬を傳來したのみに過ぎなかつた。かくてパピロニア文明の進歩はその歩みを止めた。

獨逸ヒルブレヒト教授 (Professor Hilprecht) は、その探檢によつて、即ちニツブル (Nippur) の圖書館を發見した。こゝには素焼にもしない粘土棚に、分類板が整理されて居た。凡そ二五、〇〇〇の分類板が發見された。その日付によると、紀元前約二、五〇〇年から三、〇〇〇年のものなのである。ニネヅ (Nineveh) の圖書館は公衆に使用されるために、アシュニバニバル (Ashurbanipal) の傍なるクウンジイク (Kuyunjik) 宮殿の中に建られたものだ。十九世紀中葉レヤードに依つて發見された。歴史、占星學、文法、詩歌、易、及び鬼神學(或は惡魔學)に關する諸作品からなつて居た。之等の發掘品は多くは英國博物館に移管されて居る。

次に埃及に於る圖書館である。埃及は希臘人が『ナイル (Nile) 河の賜』と呼ぶ

地である。蓋し彼地に於ては、一定季節に在つて、赤道地方の高地に豪雨が降る。その結果として年々ナイル河が氾濫する。溝渠や堰堤や貯水池などあらゆる灌漑の設備でもつて、この氾濫を利用するからして地味が大變肥沃である。この河の谷は太古から既に上埃及、下埃及に分れて居た。上埃及にある豪壯なテーベ(Thabe)の廢墟は、今なほ旅客をして在りし日を偲ばしめないでは置かない。河の兩側の彫像及び圓柱などが並び立つ廣大な廢墟、或は巖壁を切つて作つた石窟殿等、何れ王都華かなりし頃を物語らぬものはない。圖書館を語る前に一應埃及の沿革を顧みておかねばならぬ。ナイル河の多くの分流をなす三角洲の入口に、最古の國家があつた。その中心はメンフィスであつた。最初に埃及を統一した豪族をメネス(Menes)と呼ぶ。紀元前三、四〇〇年頃の人である。之を第一王朝とする。後幾度びか王朝變るが、皆メンフィスを首都となす。その名しるきピラミツドの建築が始められたのは、第四王朝(二、九〇〇—二、七五〇年)の時代である。メンフィスの王室は次第に衰へて、封建制度が始まる。やがてテーベの豪族に

依つて、第十二王朝が開かれる。テーベに於るアンモン(Amon) 神殿や大ピラミツドの傍なる大スフィンクスなどは、凡そ第十二王朝時代の作だと云はれる。紀元前十八世紀の初めシリヤ及びアラビヤの遊牧民族がこの地方を侵したが、テーベのアアメス(Aahmes)一世起つて、是等の民族を追放して帝政を開いた。是即ち第十八王朝となす。この王朝のツトメス(Thotomes)一世から四世に亘つてシリヤに出征したり、或はエーゲ海の諸島を支配するなど國威大いに振つた。これが埃及の全盛時代である。紀元前十四世紀第十九王朝になつて、前に一旦衰へた國威再び伸長した。中でもラメセス(Rameses)二世、即ちオスマンヂアス(Osman-dyas)王は最もその名が高い。(紀元前一、三〇〇—一、一三三年)彼は小アジア地方から南下侵入せるクタ人を打破り、王宮神殿を以て埃及を飾つた。

最近埃及探檢協會諸員の發見に依れば、このラメセスの建てた圖書館はディオドラス(Diodrus)やシクルス(Strielus)などに依つて書かれて居る。

是等埃及に於る諸圖書館の遺物は、神聖とされた諸書籍、歴史、哲學、科學、醫學、傳説

等に關する諸書や、又は諷刺的な滑稽を旨とした書き物を含むバビルス書から成つて居る。史家は兎もするば埃及人は學問、文學などに於て不朽な事業をなして居ないと云ふ。或は又自由な發達や、創造的活動や人格的自由が缺けて居た、などと難ざる向がないでもない。併し翻つて思ふに、建築に於て大作を出し、彫刻及び工作に及んで、精巧熟達の跡を示して居るではないか。あの遠い古い時代に於て早くから文學を創出し、著述行はれ、圖書館すらも諸處に有した事は、寧ろ我等の驚異に價しないだらうか。是等の貴い諸々の圖書館も侵略者達に依つて、或は破壊され、或は奪略されると云ふ悲しい運命に遭ふのであつた。後に及んでプトレミイース (Ptolemies) 族に依つて蒐集された、アレキサンドリアの圖書館となる事が出來た。アレキサンドリアの圖書館と云へば、その名世に高い。このプトレミイース族は最も價値ある書籍を得やうとして、希臘或は亞細亞の各地に人を派した。かくて彼等は等しく書籍蒐集家や又は知識愛護者を以て聞えたベルガムス (Pergamus) の諸王等と、争をさへ惹起した事も有名な話である。彼等の知識探求の熱

情以て知るべきであらう。

次は希臘である。希臘は一大半島の南部に位し、海岸は出入に富み、國內は多くの山脈が連つて居る。自然多くの地方に分れ、都市國家が生れるに適して居た。大體北部希臘、中部希臘、ペロポネサス (Peloponnesus) の三部に分れる。北部希臘は粗野なエピルス (Epirus) と、テッサリヤ (Thessalia) とから成る。中部希臘がヘラス (Hellas) と呼ばれる地であつて、八個の小國に分れ、アッチカ (Attica) が最も名高い。橄欖、無花果、蜂蜜に富んで居る。アテネ (Athene) はその首府である。テーベ (Thebe) 市には、七門のある事に依つて知られ、ボエオチヤ (Boeotia) の首府となす。フォーキス (Phocis) 國には雄大な自然の景勝の中に、神聖なバルナツス (Parnassus) 山が聳へえて居る。山麓なる世界の中心と思はれる處に、神殿の都デルフィ (Delphi) がある。アポロ (Apollo) の神託と、華麗なる建築や美術品を以て世に聞えて居る。中部希臘では以上の國々が名を知られるのだ。ペロポネサス地方には、アルカヂヤ (Arcadia) の國を始め、いろんなのが在つた。アルカヂヤは頑強な人民を以て滿

され、牧畜を業とする。メガラポリス (Megapolis) など名高い都邑がある。ラコニア (Laconia) は粗野を以てなる國である。山脈連り、ユウロタス (Eurotas) 河谷に、僅か許りの生産地がある。この附近に有名なラケデモンと云はれるスパルタ (Sparta) があつた。市は城廓を廻らさない、個々の區域を結合したものであつた。盛時の人口約六萬と云はれる。この國の北方にメッセネ (Messene) を首都とするメッセニヤ國が在る。更に北上すればエリス (Elis) 國に至るであらう。富裕な國であつた。こゝにオリンピヤの神林があつた。オリンピヤの競技と豪華な殿堂、貴重な美術品とで閑えて居る。この國はかゝる競技のために、平和を樂しむ事が出来て、數百年間戰禍より免かれ得るのであつた。

由來希臘本土の東西の海には大小無數の島嶼が散點して居る。之等の島々は希臘史上に極めて重要なものである。即ち西方のコルキラ (Corcyra) 島は最も早くから富んで、且つ相當な文化を有つて居た。後コリント人が、こゝに植民地を建てた。南方の海上にクリートの島がある。希臘人の來る前、紀元前三、〇〇〇年の

交から大いに開け、所謂エーゲ文明の中心地であつた。埃及から銅を傳へ、工藝を學び、紀元前廿世紀の頃には、既に表音文字を互札に書いて居る。降つて一、六〇〇年から一、五〇〇年に及んでは、最盛の文化を生み、豪華な宮殿を建て、美術の創作にいそしむのだつた。この前後から外冠漸く頻繁を加へ、遂にエーゲ文明は没落するに至る。この文化時代、最も著名な事件はトロイ (Troy) 戦争である。それは近世に至るまで、單なる傳唱にすぎなかつたが、獨逸のシュリーマン (Schliemann) の發掘に依つて確證された。この戰は歴史に取つてよりも、むしろ詩歌に依つて名が高い。詩人ホーマーのイリアード (Iliade) は即ちその一つである。戰後最終の年、トロイ城の前で行はれた戰鬪を詠じたものである。

彼等希臘人はかく割據分立をなして居たものの、言語、習俗、宗教等皆共通であつた。彼等は自らをヘレン人と稱し、他民族をば悉くバルバロスと云ふ名で稱んだ。文化創造の力に恵まれ、才分豊かであつた。剩へ優秀な肉體さへ與へられて居たので、後世人の企及する事の出来ない程、異常な進展を見せた。自由な精神に燃え、

明朗の性格をもち、旺盛な活動力が漲つて居た。天空海潤な性情は一般幸福なる生活を享受する事を得しめた。美しい國土、良好な氣候に依つて詩歌、美術、學問に精進した。だから單に生活のための仕事などは、一切自由を奪はれた外來民に委ねて了つて居た。かくして燦然と輝くペリクレス(Pericles)時代と稱ばれる黄金時代が、當然現はるべくして現はれた。これが紀元前五世紀の頃である。彼は先づ神殿及び壯麗な建築を起した。アテネ神に献げたバルテーンの如きが夫れである。かくて首都を飾り、學問藝術を奨励し、大彫刻家フィヂヤス(Phidias)始め多藝多能の文人墨客を歡待した。ために美術、文學、詩歌の愛求は一般大衆にまで普及徹底した。

とは云へ只こゝで我等は咲く花の匂ふが如く榮え出でた希臘文化に、愛惜おく能はないものがある、と云ふ事を記すに止めやう。かゝる希臘民族であつたものを、どうして圖書館の建設を忘れ得たであらう。併しそれは遺憾ながら、必ずしも明瞭ではない。即ち彼等に於ては、自由の時代に古典作家達が私有文庫を持つて

居た痕跡のみ、僅かに知られるのである。最初にペリジストラツス(Perisistratus)に依つて亞典に創設されたと云ふ公開の文庫に就ても、大部疑はしい點がないでもない。尤も古代希臘の諸圖書館に在つて、書籍は殆んど奪略されるか、散逸するかして了つて居る。それら書籍に關する極めて斷片的な知識のみが古典研究家達の喝采を博するに過ぎぬ、と云つた有様である。ペリジストラツスに依つて齎らされた圖書館にしたところで、クセルクセスが亞典を滅した時に彼斯に持つて行かれて了つた。やつと二世紀後になつて取戻されたとも云はれる。

希臘人が自由を失つた後には、希臘の文化は小亞細亞や埃及や伊太利などに移植された。その結果圖書館が創設された。最も著聞するのは、ブトレマイオス家の創建にかゝるアレキサンドリヤの二つの圖書館と、ベルガモンの夫れである。アリストテレスの圖書館の如きも種々な變遷の浮目を見ねばならなかつた。かゝる移ろひ變りの後、西紀前八二年、たうとう羅馬に移されて了ふのである。かく希臘人苦心の末なつた有名な諸圖書館が小亞細亞に幾らかでも、幾世紀か殘存

して居たと云ふのは、せめても我等の心を慰めるであらう。

次に羅馬である。羅馬の郷土は云ふ迄もなく山水明媚な伊太利半島である。早くから種々に異つた民族の住む處であつた。傳説に依ると様々面白い物語りがある。こゝでは夫れを語る必要もない。ところが傳説を離るれば羅馬の起源は明かでない。近世史學の教へる處では、元來羅馬の市はエトルリヤ (Etruria) サビニウム (Sabiniun) ラチウム (Latium) なる三地方の交通の要衝に當る。チベル河を控へて水運の便を持つて居る。土地が高く衛生に適して居る。且つ外敵に對して防備にも便利であつたから、バラチネ (Palatine) 丘を中心とし、周圍の三民族を糾合して、紀元前一〇〇〇年頃、一つの混合市をなすやうになつた。かくて後王政が出現した。之が紀元前七五〇から五〇〇年の間である。この頃壯嚴なカピトリウムが造營される。最後の王タルクイニウスの時、人民會議が王政を廢した。これから貴族が政權を掌握する。即ち王政顛覆ののち元老院が、羅馬の最高權力を握るのであつた。かやうに羅馬は政治的に幾變遷を経て、遂にカルテージと覇

を争はねばならぬ事になる。紀元前三世紀の頃だ。カルテージ即ちカルタゴはフェニキヤ人に依つて亞弗利加の北岸に建てられた商業都市である。紀元前八八〇年であると傳へられる。

こゝの住民は企業心に富み、知慮に秀で、居たから素晴らしい繁昌を見せた。カルタゴ人は地中海沿岸諸國許りでなく、遠く大西洋沿岸まで通商交易の手を延ばした。羅馬が商業發展策を講ずるとなれば、勢ひカルタゴと利害が衝突しないでは居ない。こんな譯で兩者は何回も兵戦を交ふるのである。カルタゴは最後に及んで饑餓に襲はれ、更に疫病の見舞ふ處となり、慘狀眼も當てられない。處々に慘憺たる市街戦が演ぜられた。住民の多數は怖ろしい焼拂ひのために落命して、遂にカルタゴの最後の日は來た。紀元前一六四年の事である。七百年來榮えに榮えた港市は、見るも無殘な焦土と化する。羅馬のスキピオがヂクタートルとして、名を揚げたのはこの時であつた。

何にしても羅馬人が希臘人と相識つたのは、その文化の上に大なる影響を齎ら

したのは云ふ迄もない。即ち一四六年の頃希臘の地はアカヤ (Achaia) と云ふ名を得て、羅馬の屬州と化し、マケドニア總督の配下に歸する。文化の光輝きに輝いた希臘も亦この運命である。有爲轉變の繪卷物を繰り去り繰り行けば、まことに興味津々として盡きない。かくて羅馬に輸入された希臘文化は、その文學、美術、學問などは羅馬の有爲有能な才人達に攝收された。彼等の新鮮な感覺や感情を呼び醒まさないで居なかつた。スキピオの如き積極進取の士はヘレンの學問、詩歌、美術を推奨して已まない。希臘の學者、詩人、哲學者をば保護扶持して、その精神、言語までも羅馬へ移植しようと努めたものだ。羅馬の詩人達はスキピオの保護を得て希臘風の作詩を志した。劇作家また然りである。さりながら羅馬人は希臘人の如く創造の天才ではなかつた。専ら兵術、政治、立法にのみ意を傾け、又それが得意でもあつた。學問、藝術に至つては、遂に希臘の敵ではあり得なかつた。従つて希臘のそれらを攝收しながらも、ヘレン人の高さまで達するを得ない。只輸入と模倣にのみ終止したのは憐れの限りであつた。

斯んな事情で古代羅馬には兵戰相次いだ。かくて最初の大圖書館なきに非ずであつたが、大方は戰禍に依つて害はれた。マケドニア王の建てた圖書館は、紀元前一六八年に羅馬に移された。元來羅馬人達が圖書館に留意し始めたのは、やつとカルタゴ人との戰爭の後の事だつた。最初の公開圖書館を建てたのが、アヂイニウス (Asinius) とポリオ (Pollio) であつた。アウグスツス治下に建てられたのは、オクタヴィアナ圖書館及びバラチネ圖書館の二つであつた。これも畢竟は蠻族の侵略に犯かされる爲めに建てられたやうなものである。羅馬人の考へに依れば、圖書館を持つ事は紳士か有識者のたいなみだと思ふのだつた。羅馬の圖書館に就ては、一つはビトルフとプリニウスとが、又一つにはヘルクラエムに發掘された圖書館が教へて呉れるであらう。彼等は圖書館の管理をば解放された奴隸に一任するのであつた。斯んな事を考へると彼等に於て、どの程度迄利用されたかは、疑しいのである。むしろ單なる裝飾ではなかつたのだらうか。併し傳へられる處に依れば、羅馬に於る貴族者流はせつせと圖書館に通つたものだとも云は

れる。さすれば必ずしも單なる飾りでもなかつたのかと思はれぬでもない。兎に角羅馬に於ては、四世紀の頃二十九の公共圖書館を持つて居たと云ふ事だ。それとて民族大移動の嵐の爲めに、この古い圖書館も亦失はれねばならなかつた。

第二節 中世

西歐の中世時代は云ふ迄もなく、宗教萬能の世界である。この時代に於る歐州文化を獨占し、人間の精神的幸福に對し決定力を具へる許りでなく、政治的勢力さへも振つたものが基督教の僧侶であつた。ゲルマン民族が羅馬帝國領に侵入する頃には、民事や刑事の事件が裁判官に訴へられないで、司教に訴へられた。司教は人民を指導し、秩序維持の任に當つた。教會は逃避者の避難所であり、司教は市政の監督者でもあつた。宗教の威力がいかに絶大なものであつたかが、理解される。就中羅馬の司教は、早くより最も重んぜられ、レオ一世と云つたやうな俊傑が輩出した。それだから多くの司教は羅馬司教即ち法王の下で協同して働くやう

になつた。數萬の地主たる貴族の割據して、政治的法律的統一を缺いた西部歐羅巴は自然基督教に統制される。かくて教會首たる羅馬法王は、教會や僧侶を支配した許りでなく、一切地上に於る諸國諸侯に對しても、主權を行はうとし、帝位を自分の封土と見做した。

又法王領以外に、大司教區及び律院(アペイ)は漸次廣大な封土を得た。それ許りでなく、諸種の建築、圖書、商品財寶を有して、世俗的侯伯と、異ならないやうになつた。一般司教の權力は次第に羅馬の大本山(即ち法王廳)から拘束されるに至る。法王廳は全教會を監督し、諸事本山の指揮命令を受ける。かくては法王廳は無上のものとならざるを得ない。かく法王權を増大した原因は、史家の指摘する處に依ると、

- (1) イシドル(Isidor)律令と云ふ偽書
- (2) 律僧制度、宗教團體及び律院の増加
- (3) 煩瑣哲學と稱せられる神學

などが擧げられる。イシドル律令とは第一世紀乃至第四世紀に於る教會法令と判決集とを稱するのだが、第九世紀頃一切の權力を法王に附與せんとの意圖のもとに作爲せられたものだ。

律僧(Monk)又は尼(Nun)と云ふ制度は極めて興味がある。信者と一緒に生活して教會の事に携つて居るのが在家僧(Secular clergy)と云ふ。之と區別して律院(monastery)内のみ生活する出家僧をモンクと呼ぶ。第三世紀の終り埃及人アントニウスが隱者達を集めて共同生活をさせた。その弟子パツコミウス(Pachomius)が隔離せる而も閉鎖した建物に、かゝる隱者達をして一定の規律に従つて生活せしめた。かく閉鎖した建物が英國ではクロイステル(Olaster)獨逸でクロスター(Kloster)と稱ばれる。かやうな律制度が忽ち西歐に傳つた。紀元五二九年ヌルジャ(Nursia)のベネチクトは、スイタリヤのカシノ(Cassino)山上に始めてモナストリを起した。これが有名なベネチクト派教團の始めである。この教團は各地に急速に擴張して、數多のモナストリが建てられた。彼等律僧達は村落の農民

を救けて、開墾に従事した。森林や荒地は律僧に依つて、豊饒な耕地に變ぜられた。それ許りでない。虐遇壓制を受ける者達に、彼等は避難所を與へた。

更に彼等はさ迷ふ小羊に福音書を教へる事を忘れなかつた。其の心情を柔げ、より高いものにする事も忘れなんだ。モナストリのなかに學校を設けて、少年達の心に、教養の否、更に宗教の種を蒔いた。古代の文學や科學に關する殘存書籍を蒐めては保存した。特にこのヌルジアのネベチクトに依つて建てられた教團のモンクが、異教徒文學の記念物の數々を救ふた。彼によるカシノ山上に於る圖書館は有名である。この外著聞するものに、ウエスフアリアのコルフエイ圖書館や、フルタ圖書館などがある。アプトゴスベルトが建てたのがザンクトガレンに在つた。その圖書館に於る書籍數は當時の凡ての蒐集を凌いだものである。當時のモンク達が文化に於ては、事實立派な指導的地位に在つた事が理解されるのである。アツシジのフランシスに依つて建てられたのがフランシス派の教團である。この派は行乞を行つて歩いたので乞食派と稱せられる。特に羅馬法王の最

大支柱であつたから、最大の特権が與へられた。今一つ西班牙の學者ドミngoに依つて建てられたドミngo派がある。この派に屬するモンク達はフランシス派のそれと異り、學問や思辯に耽つた。次第に大學の講座を滿すに至つた。

第十三世紀に出たドミngo派のトマス・アケイヌス(Thomas Aquinas)及びフランシス派のダuns・スコツス(Duns Scotus)は煩瑣哲學の精華であつた。斯てこの學派はトマス派とスコツス派との二つに分れる。煩瑣學派の發展を促したものは十二世紀頃に始る當時の大學であつた。伊太利のボロニヤ大學、及びソレルノ大學は最も早く建てられたが、佛蘭西では巴里大學、英吉利では牛津大學が最も古いのである。もとより各大學では、獨り神學許りでなく、醫學や法學なども講ぜられたのは云ふ迄もない。其の豫備門に於ては、最初文法、修辭學、論理學などが教へられた。次に算術、幾何、星學或は音樂と云つた處が教られるのだつた。大學教育の基礎となるものは、初め教會やモナストリに附屬する學校であつた。後には特殊の中等學校も設立されるに至つた。この時代に於る教育の凡ては羅典語に依つ

て、狭い學問が教へられるのみであつた。學者と云ふのが大方はモンクに限られて居た。一般民衆の子弟が、町の學校や組合の學校で國語の讀み書きを學び得るやうになつたのは、やつと中世最後の頃である。かくてこの時代の圖書館と云ふ圖書館は、教會や教會に依つて建てられ、大學にしたところで、凡て僧侶に依つて支配されて居た譯だつた。法王ニコラウス五世は三千に近い手寫本を買上げ、大バチカン圖書館を打建てた。

第三節 文藝復興以降

中世から近世に遷る過渡期は、文化史上極めて重要な一時期を劃する。所謂ルネッサンス(Renaissance)と呼ばれる。譯して文藝復興時代と稱せられる。文運いとも華かなりし時代なのだ。まことに世にも珍しい事ではあるが、この期のあらゆる文化はフローレンスの一人メチチ家を抜きにしては考へられない。その次第を暫く顧みよう。第十二世紀以來佛蘭西にも、獨逸にも、殊に伊太利にも詩

人藝術家ないではなかつたが、その作品は極めて素朴生硬の域を脱しなかつた。これが第十五世紀前後から事情一變する。この時代に咲いた文化の花は、併し一朝にして成つたものではなかつた。數世紀に亘る苦闘の結晶である事を忘れてはならぬ。九世紀のアイルランドの神學者エリウゲナ (John Scotus Eriugena) や、巴黎大學の基を作つたと云はれる哲人アベラール (Abelard, 1072—1142) や、フランシス派の僧侶ロージャ・ベーコン (Roger Bacon, 1214—1294) 等は、盛んに精神の自由を説き、理性の重んずべきを教へるのだつた。彼等に依つて詩人は刺戟を感じないで居なかつた。即ち中世時代に暴威を逞ふした煩瑣哲學に對して世人は漸く倦怠を覺えて居る頃である。古代の文化や文藝に對して光明を見出し、憧憬を感じ初めし時分であつた。かくて古典文藝を模倣し、アリストテレスや教會文藝の桎梏を脱せんと準備をした。彼等は古希臘、古羅馬の古典をば人生に最必須のものと見たので Humanisten (人道派或は人本派) と云はれる。Humanisten とは羅典語の humanistas から出て居る。教化と云つたやうな意味である。(註—Windelband: Geschichte der Philosophie.)

新に人道派を創めて宗教の羈絆を脱したのは伊太利のペトラルカ (Petrarca) である。彼は個性の尊嚴を主張して己まなかつた。こゝにルネッサンスの根本特徴が存する。まことに文藝復興とは個性尊重の思想であつた。否、人間の發見であつた。ペトラルカと共に我等はダンテ (Dante) 及びボッカチオ (Boccaccio) を逸してはならぬ。時代に於て彼等はまだ中世の人であつたかも知れないが、その中心思想はまがふ方なく新時代の人であつた。其の先驅者であつた。ダンテは因襲に捕はれないで自由に愷かれた。人間の自覺を促した。伊太利の人達に向つて羅馬や希臘の古典や古學の研究を鼓吹して己まなかつた。爾來學者達は異常なる熱心さで古書の蒐集に努めた。殊にコンスタンチノーブルの陥落と共にそこから古寫本を携へて、希臘の學者が群をなして伊太利へやつて來た。愈々以て古學研究の熱度が昂まつた。

かゝる氣運のなかに於て圖書館が建たない筈がない。今や圖書館は切實なる

要求でなければならぬ。その役割を演ずるのがフロレンスのメディチ家である。メディチ家とは一體何であるか。伊太利はトスカナ地方で、先づ榮えたのがピサと云ふ商業市であつた。このピサが倒れてからフロレンスが諸市に卓越した。こゝの主權は最初貴族の掌中に在つたが、後庶民の手に歸した。こゝに主權の爭奪が行はれ、或は富豪が國政を執り、或は民主的團體が執ると云つた風だつた。富豪のメディチ家は穩和親切に貧民にも接したので、貴賤各層の人心を收攬した。この名家に於てコシモ・デ・メディチ (Cosimo de Medici, 1428—1464) は素晴らしい人材であつた。無位無冠の一平民でありながら、嘗つての希臘の人傑ペリクレスのやうに無上の權威を振ふた。國をして富強ならしめた許りでなく、學藝の奨励には最善の努力をおしまなかつた。「祖國の父」と稱されたのに不思議はない。

コシモの孫ロレンツォ・デ・メディチ (Lorenzo de Medici, 1472—1492) がまた祖父に劣らぬゑら物だ。父祖の志を承けてフロレンスをば凡ゆる學藝の淵藪、全歐文化の中心地となす。土耳其への鋭鋒を避けて來たビザンチンの學者達も彼の庇護

を受けて、安んじてフロレンスで希臘語、希臘文學の講義をなすのだつた。もとより彼は凡ゆる書籍の聚集を忘れなかつた。それから出來たのがメディチ家圖書館 (Medices-Lorentians) である。メディチ家には巨大な富があつた。剩へ政治的に絶對的の支配權を振ふ事が出來た。加之學問藝術に對する同情理解と愛護の精神が深かつた。いかに富あればとて、文化的理解がなければ望まれない。又いかに深き文化の理解者であつても、富がなくば期待は出來ない。彼の家に於ては凡ての條件が、完全に具備されて居た。もしメディチ家がなかつたとしたら、ルネッサンス期の文化は、どんなに貧しいものであつたらうと思はれる。かくて彫刻に繪畫に、音樂に空前の輝かしい美花が咲き漫れるのであつた。ミケランジェロ・ブオナロッチ (Michelangelo Buonarroti, 1475—1564) やマキヤヴェリ (Machiavelli, 1527) など一代の巨星學匠が、無數にこゝフロレンスに住んで名聲を馳せた。

文藝復興は人文的運動であつたが、同時に發明と發見の時代であつた。一三〇〇年には既に眼鏡が發明された。一三六四年には時計が、一五九〇年には顯微鏡

が、一五九七年には氣温計が、と云ふ風に次ぎ々に發明された。かゝるなかになつてルネッサンス時代の三大發明と云ふのがある。それは一に羅針盤である。二に火藥、三に活版印刷術であつた。これらの發明は十九世紀に於て、蒸氣機關の應用や電氣の應用などの發明に優るとも劣るものではなかつた。まことに印刷術の發明に依つて、新しき時代が誕生したとさへ云はれるのである。

殊に世界の面貌を變へしめたのが宗教改革であつた。宗教改革はルネッサンス精神の自らなる展開に他ならなかつた。つまり文藝復興的精神が宗教の面に現はれた迄である。又當時の多數の人民が、舊い職業の衰微によつて、その郷土を失ひ、職業を離れ、新政府から重斂せられ、資本階級の勃興によつて惱まされた結果、社會的不安に促されたものとも見られよう。教會改革の叫び聲は、既に第十五世紀の頃から聞えたのであるが、もとより教會は是等民衆の聲に耳を傾けようとはしなかつた。當時下級の僧侶は懶惰放逸にして無學であつた。文化の動向進展などには毫も顧みるところがない。上級の僧侶は感覺的享樂に日も足らず、王公

は驕奢に寧日ない有様だつた。歴代羅馬法王は非教會的生活のみに汲々たる姿である。法王や僧侶に對する不滿の聲が次第に昂まるのは當然の歸結であらう。かゝる折しも冤罪符の問題をきつかけとして、獨逸サクソニヤなるオーガスチン派の律僧マルチンルーテル(Martin Luther)に依つて、沈痛なる反抗の火蓋が切られた。こゝに切つて落された宗教改革の幕は、その舞臺を次第々に展開した。獨逸に於て既に新教派の結成が出來ると、次は瑞西である。漸次に擴大して果ては宗教戦争にまで轉化しなければ已まなかつた。今こゝで夫等に就て細敘する要はない。かゝる宗教改革や宗教戦争の結果、之と前後して、皇帝、法王の威力が頓みに衰へた。之に伴つて傳説や教權の權威は地に墜ちた。教會の鬭争、宗教の爭論の賜として現はれたのが、精神活動の伸張である。一般の啓蒙を促し文運隆昌を極めた。所謂世は知識至上の天下となり、啓蒙期(Enlightenment, Aufklärung)なる一時期を劃する。知識至上は理性萬能だから證據や傳統や因習の威が行はれる筈はない。勇敢に偶像破壊を斷行するものである。従つて精神的財産に對する

活潑な興味が起り、あらゆる文化的領野に於て異常な創作を残した。かうして貴族僧侶の影は薄らぎ、僧院は廢さるべき運命に立至つた。従つて其の所屬の圖書館は都市や領主若くば學校の有に歸するのだつた。之で初めて圖書館が一般に利用される事となつた。知識や圖書が僧侶輩の獨占物でなく、一般大衆のものとなるべき日が始めて來たのだ。斯くてこそ始めて潑刺たる文化の進展向上を期待出來る譯である。

こゝで英國に於ける初期の圖書館に就て觸れて置き度い。この英國に於ても諸圖書館の發達は基督教の傳播に依る。即ちこの國に在つて、諸圖書館はキャンタベリー、ヨーク、クロイランド、ウィット、ドーヴェー、ダーハイム、ウエアマウス及びグラストンベリー等のやうな、大寺院に圖書を蒐集する事から始つて居る。諸大本山の多くの伽藍も亦圖書館を持つた。愛蘭土には極めて古い時代に宗教教育を授ける大きな學校があつた。それは大陸との接觸に依つて急激に發達し、約八世紀の頃ケルスの書を出した學校に於て、極點に達したものである。

十六世紀に於ては諸王國の壓迫のために古代圖書館の寶物は分散されたり、破壊されるやうな運命に遭ふた。寺院圖書館は辛うじて、その悲運より免れるものもないではなかつたが、寶物の多くは奪略の憂目を見ねばならなかつた。オックスフォードのハムフレイ侯圖書館の如きも、同じ破目に陥つた。尤も該圖書館の建物は保存され、圖書館中最古の部分が、一六〇四年にサー・トーマス・ポットレイに依つて建直された。劍橋やダブリンのトリニチーやアパーディンやエヂンバラや乃至はグラスゴーや又はセント・アンドリュース等の大學圖書館は、サー・トーマス・ポットレイの設立されるよりもつと早い創建なのである。世界最大を誇る英國博物館の附屬圖書館にしても、一七五三年までは建てられてなかつたものだ。だからやつと二百年足らず前に建てられた許りだ。この圖書館の出現はサー・ハンス・スロンの寄附に依つたのだ。之は帝室圖書館の追加に依つて、その權威を高めた許りでない。測り得ないやうな稀覯書や貴重文献の蒐集でもつて、彌が上にも價値を高めて居るのは、誠に羨しい限りではないか。

活潑な興味が起り、あらゆる文化的領野に於て異常な創作を残した。かうして貴族僧侶の影は薄らぎ、僧院は廢さるべき運命に立至つた。従つて其の所屬の圖書館は都市や領主若くば學校の有に歸するのだつた。之で初めて圖書館が一般に利用される事となつた。知識や圖書が僧侶輩の獨占物でなく、一般大衆のものとなるべき日が始めて來たのだ。斯くてこそ始めて發刺たる文化の進展向上を期待出来る譯である。

こゝで英國に於ける初期の圖書館に就て觸れて置き度い。この英國に於ても諸圖書館の發達は基督教の傳播に依る。即ちこの國に在つて、諸圖書館はキャンタベリー、ヨーク、クロイランド、ウィット、ドーヴェー、ダーハイム、ウエアマウス及びグラストンベリー等のやうな、大寺院に圖書を蒐集する事から始つて居る。諸大山の多くの伽藍も亦圖書館を持つた。愛蘭土には極めて古い時代に宗教教育を授ける大きな學校があつた。それは大陸との接觸に依つて急激に發達し、約八世紀の頃ケルスの書を出した學校に於て、極點に達したものである。

十六世紀に於ては諸王國の壓迫のために古代圖書館の寶物は分散されたり、破壊されるやうな運命に遭ふた。寺院圖書館は辛うじて、その悲運より免れるものもないではなかつたが、寶物の多くは奪略の憂目を見ねばならなかつた。オックスフォードのハムフレイ侯圖書館の如きも、同じ破目に陥つた。尤も該圖書館の建物は保存され、圖書館中最古の部分が一六〇四年にサー・トーマス・ポットレイに依つて建直された。劍橋やダブリンのトリニチーやアバーディンやエヂンバラや乃至はグラスゴーや又はセント・アンドリュース等の大學圖書館は、サー・トーマス・ポットレイの設立されるよりもつと早い創建なのである。世界最大を誇る英國博物館の附屬圖書館にしても、一七五三年までは建てられてなかつたものだ。だからやつと二百年足らず前に建てられた許りだ。この圖書館の出現はサー・ハンス・スロンの寄附に依つたのだ。之は帝室圖書館の追加に依つて、その權威を高めた許りでない。測り得ないやうな稀觀書や貴重文献の蒐集でもつて、彌が上にも價値を高めて居るのは、誠に羨しい限りではないか。

英蘭、蘇蘭、愛蘭の聯合王國に於て出版される書籍の寫は、出版者から凡べて英國博物館附屬圖書館に送られる事になつて居る。それ許りでなく出版者は、又要求があれば出版書籍の寫を次の諸圖書館に送るのである。即ちオックスフォードのボットレイ圖書館、ケンブリッジ及びダブリンの大學圖書館、エジンバラの辯護士會圖書館或は又、アバリストウイスのウエルズ國立圖書館などがこの特典になり得るのである。

エジンバラの辯護士會圖書館は一六八二年の創建にかゝる。愛蘭ダブリン及びウエルズ(アバリスウイス)の國立圖書館は近代の創立にかゝる。後者はウエルズ稿本及びウエルズ語と、他のケルト語で書かれた稀觀本の貴重な蒐集を持つて居る。一般的使用に供する爲めの公開圖書館の設備は、近代的發達にかゝつて居るもので、世紀の中頃に設立されるのであつた。

そこで筆を再び大陸の方に戻すとしよう。イスパニヤ王フィリップ二世の狂

熱に依つて西歐羅巴が宗教戦争の慘禍に遭つて居る最中、獨逸はフェルディナンド一世 (Ferdinand I. 1556—1564) 及びマクシミリアン (Maximilian II. 1564—1576) の統治よろしきを得て干戈の響きを聞かなんだ。二帝は嚴正な不偏の意見によつて良く宗教的平和を維持する事が出来た。ところがマクシミリアン二世が早く死んだ後、ルドルフ二世 (Rudolf II. 1576—1612) が、之を繼ぐや事情は直ち一變する。もとゞ、戦亂の種が様々残されて居る處にもつて來て、ルドルフは統治の才がなかつた。専らゼスイット派の意見のみ聽從したからたまらない。オーストリア家の世襲領土内は勿論、帝國內でも争鬭、黨争、紛擾が陸續として起つた。之が有名な三十年戦争のもとである。ボヘミアには戦亂が起り、デンマルク王は來攻すると云つた鹽梅で、大變な騒ぎであつた。かゝる三十年役の結果として、獨逸各地の君主の勢威が増大した。君主の財政は膨脹する。官吏は多くなる。商工業は衰頹し、人口は激減すると云ふやうな次第で、舊時の繁榮は永く回復しさうにもない。こんな譯なので、漸く花も咲かう實も結ばうと云ふ多くの文庫にも、異狀を來さな

いでは居なかつた。例へばハイデルベルグの図書館などは目茶々々になつて了ふのだつた。この市が Tillis の手に移ると共に、図書館内に藏せられて居た貴重な手寫本千六百二十二巻と云ふものが、羅馬のバチカン宮殿に移されねばならなかつた。

夫許りではない佛蘭西大革命の勃發は、図書館をば平安なものとして置かなかつた。その大部分は破壊された。いかにして佛國に大革命が起つたか、どう云ふ風に展開したかと云ふやうな事は、もうこゝで説くまい。一七九七年勝ち誇つた佛蘭西人は數千の手寫本をバチカン宮殿から巴里に移した。特に維納のものはひどかつた。奈翁が失脚すると先に掠奪された貴重品は佛蘭西に奪ひ去られたものと、三十年戦役のさなかバチカン宮殿の図書館の有に歸した手記は、兎も角取戻される事は出來た。ストラスブルグ図書館は一八七〇年八月灰燼に歸した。レーヴェン図書館は一九一四年に砲撃されて烏有に歸した。これは世界大戦の戦禍に依るものだ。その外甚しい火災に遭つたものとして、一九〇四年のチユー

リン図書館がある。アルバニーの北米図書館(一九一一)聖ポール図書館(一九一五)更にソール図書館(一九一六年)や、デトモルト図書館(一九二一年)なども災火の見舞ふところとなつたものだ。斯うなると図書館も平和許り夢みて居れない次第である。(註—Meyers Konversations Lexikon 2te Bd.)

第二章 支那に於ける圖書館史

第一節 清以前の集藏と散佚

支那古代の書籍の竹簡であつたことは種々な文献で明かな處である。簡と云ふのは大體文字を用ひし竹牒(たけふだ)の意である。古昔にはもとより紙がなかつたから、皆このたけふだに書いたものである。夫故に竹冠になつて居る。後轉じて書物の義となつた。書物に關する字で篇、簿、籍、策などが竹冠であるのは、もと之がためである。併し竹簡は重くてかさばるので携帶に不便である。それで繒帛(かとりぎぬ)或はねりぎぬが用ひられた。是とて價貴く容易に得る事が出來ない。後漢の蔡倫和帝の元興元年(西紀一〇五年)に、竹簡繒帛に代るものを發明した。是が後世の紙の起源である。後漢書三十九周盤傳に

編二尺四寸簡寫堯典一篇并刀筆各一、以置棺前、示不忘聖道

とあるさうだが、之は蔡倫が紙を發明した後の話である。その頃とて舊風を墨守したるものはないが、竹簡や縑帛を用ひるの風は漸く止んで、書籍は一般に紙を用ふるやうになつた。たゞ卷軸にして文字を寫すことは上代と異はなかつた。そんな風が猶ほ唐の時代迄行はれたと云はれる。

寫本時代から當然版本時代に入る譯である。支那に於る出版の起源に就ては古來種々の説がある。既に隋文帝開皇十三年十二月にこの事があつたと唱ふる向もある。之に對しては異説も存する。併し唐末、蜀の地方に版本のあつた事は疑はれない。それで出版の起源を唐末に置くのが普通妥當とされてゐるやうである。それでも版本は一般に行はれて居ないのであるから、唐の時代は猶寫本の時代であつたと云ふのが市村博士の所説である。五代に及んで出版のこと稍々行れるやうになつたが、この前後は寫本から版本に至る過渡期に屬した。斯て寫本時代に於る卷軸の風漸く變じて、冊子となつたのも唐末五代の頃であつた。

併し宋の初めに於ても猶版本を得ること容易でなかつたが、蘇軾の頃に及んで漸く流行を見た。南宋の時代になると、普通の書籍は大抵版本となつた。而も活版術も印版の術に伴つて北宋時代に發明され、明の時代に及んで銅鉛の活字さへ出來て來た。清初に至つて銅の活字を作つて武英殿に藏めた旨が記されて居る。然るに乾隆の初年、銅の活字は皆毀して錢となしたさうである。その代り木の活字を作つた。即ち清初には『圖書集成』の如き大部の書籍が銅の活字で出版されるのであつた。又『永樂大典』(明の成祖が永樂元年に詔命を以て編纂せしめたものである)の中なる珍書を木の活字で出版して居る。それが乾隆年代の頃である。

寫本時代や版本時代を通して夫れ等書籍の集藏の狀は如何であつたか。支那に於ては、秦の始皇の如きが時にないではなかつたが、總じて歷代王朝では書籍の集藏に努める皇帝が多かつた。併し易姓革命甚しく、治亂興亡常なかつた故かその集佚の激甚であつたのは想像に餘るものがある。梁の阮孝緒の七錄によると、

七略(劉歆の避)六百三十家

漢書藝文史(班固の作)五百九十六家

晉中經薄(荀勗の作)千八百八十五部

三十一家存
五百七十二家亡
四百四家存
五百五十二家亡
七百六十六部存
千七百九十九部亡

と云ふのである。劉歆の時から阮孝緒の時まで六百年経つて居るのに、存せるもの僅かに二十分の一である。班固の著作時代からは五百年であるが、存せるものは十三分の一強に當る。荀勗の時から二百五十年であるが、之又存せるものは八分の四にすぎない。散亡の甚しき、以てその一般を知るに足るであらう。

以上は所謂外典に屬する典籍であるが、内典に屬するものも、勿論同じ運命に遭ふ他はなかつた。今試みに『開元釋教錄』によつて、後漢より唐の開元十八年に至るまでの存亡の一般を表示しよう。

佛典存亡一覽表

時代	著譯總數	唐代存亡の數
後漢	二九二部 三九五卷	一九七部 二六四卷
曹魏	一二部 一八卷	八四部 一三五卷
孫吳	一八九部 四一七卷	二六八部 三九五卷
西晉	三三三部 五九〇卷	七六部 二二九卷
東晉	一六八部 四六八卷	八五部 三三六卷
前秦	一五部 一九七卷	八七部 一三五卷
後秦	九四部 六二四卷	六八部 一三六卷
西秦	五六部 一一〇卷	二六部 九二八卷
前涼	四部 六卷	二四部 三九卷
後涼		一部 五卷

北涼	八二部	三一一卷	五二七部	二〇九卷	亡存
宋	四六五部	七一七卷	三七九部	四七四卷	亡存
齊	一二部	三三卷	五七部	二八卷	亡存
梁	四六部	二〇一卷	四〇部	一九一卷	亡存
後魏	八三部	二七四卷	一七〇部	二五九卷	亡存
北齊	八部	五二卷	全部	全部	存
北周	一四部	二九卷	八部	一一卷	亡存
陳	四〇部	一三三卷	二六部	八九卷	亡存
隋	六四部	三〇一卷	六二部	四七卷	亡存
唐	三〇一部	二二七〇卷	二八一部	二四三卷	未獲存
總計	二二七八部	六八四六卷	一一二〇部	一六五三卷	亡存

右に挙げた『七略』は成帝の時、謁者陳農をして遺書を天下に求めしめ、劉向父

子をして採録せしめたものであつて、之に著録せるもの、一萬三千二百十九卷と稱せられる。劉歆の七略に於ては書籍の分類を定めた。即ち

- 六藝略
- 諸子略
- 詩賦略
- 兵書略
- 術數略
- 方技略

の六となす。略とはつまり類との意であらう。魏の文帝は頗る文學を好み、再び典籍を蒐集せしめた。その後荀勗が『中經簿』に著録した。その數二萬九千四十五卷と云はれる。之に於ては甲乙丙丁の四部に分類した。即ち

- 甲部——經書
- 乙部——諸子

丙部 歴史

丁部 集類

の四部である。是れが後經史十集に分つものとなつた。

中經部に集録した書籍は例の兵亂に依つて皆散佚し、李充の書目に録したのは僅かに三千十四卷にすぎなかつた。然るに東晉の孝武帝以後、又蒐集した結果一萬餘卷を増した。宋の謝靈運の『四部目錄』には一萬四千五百八十二卷が録せられるに至つた。王儉の『七志』に擧げたるものは一萬五千七百四卷であつた。阮孝緒の『七錄』に佛典道書を除いて猶三萬七千九百五十三卷を收める事が出來た。以上は當時現存の書であつた。是とて梁の侯景の亂に、祕閣の書は皆灰燼に歸した。それでも文德殿の書は猶存したと傳へられて居る。それらは皆江陵に送られた。それが七萬餘卷に及んだと云ふ。だから梁の元帝の蒐集した典籍は大したものであつた。然るに江陵も西魏に依つて陥れられたので、元帝は自らその書を焼いた。

隋の文帝開皇三年、牛弘の建議によつて、異本を探索せしめた。書を出すものには一卷につき絹一匹を與へたのみでなく、模寫した後に原有者に返した。かく聚集に努めても集め得たもの、猶一萬五千餘卷にすぎなかつた。次いで煬帝は暴政を以て聞えては居るが、秦の始皇帝と違つて、文學を尙び書籍を重んずること極めて厚かつた。帝の大業年中に嘉則殿に貯へたるもの三十七萬卷あつたと云ふことだ。江都の亂で又兵火にかゝる處となる。唐の貞觀中太宗は弘く天下の書を集めるのに苦心した。弘文館に蒐集したものが二十萬卷に及んだ。玄宗皇帝の時代に民間の異本を借録し、長安と洛陽とに集賢書院を作つて經史十集に分つて兩都の四庫にをさめた。『四庫全書』など云ふ言葉はこの時に創まつたものである。當時に於て録せられたるもの五萬三千九百十五卷、外に唐人の著作二萬八千四百六十九卷を數へた。安史の亂に悉く散逸した。後代、宗の世に更に蒐集に努めてよく集めたが、之も兵亂に焼失した。

宋が海内を統一するや、圖書を蒐めて

昭文館
集賢院
史館

の三箇所に收藏した。是を三館と云ふ。太祖の初めに一萬二千餘卷存した。更に蒐集につとめたので典籍大いに備つた。太宗の時三館の書を併せ藏した。之を崇文書院と云ふ。八萬餘卷を收む。内萬餘を分つて祕閣に藏した。是等は金人汴京に入つた折に災厄に遭つて散亡した。高宗また銳意收集した。『中興館閣書目』によると四萬四千四百八十六卷あつた。寧宗時代の『續書目』には一萬四千九百四十三卷を増したから、宗末に於て館閣現存の書は六萬卷に近つた。

南宋に於ては書籍は中興館閣に收藏されたやうである。『中興館書目』なるものが淳熙五年に著されたが、是即ちその藏書目録である。この頃は既に印刷盛んとなれる頃なので、その藏書數も相當數に上つたと思はれるが、遺憾な事には、中興館書目は已に亡びて傳はらないので、いかなる書籍が傳はつて居たか皆目見當も

つかない。尙『宋史藝文志』は宋代に於る圖書目録であるが、その目ありて殘存せざるもの之又尠くはない。只僅かに陳振孫の『書錄解題』と晁公武の『郡齋讀書』とに依つて、宋末現存の書を考へられるのみである。明初となつて『文淵閣書目』なる著録があるが、この文淵閣と云ふのが當代の王室圖書館であつた。文淵閣は清代に至つて乾隆帝の『四庫全書』と深い因縁を有する事となる。

元の兵が臨安に入るに及んで右の書籍は大都に運ばれた。もちろん散逸したものもあつた。太宗の時、經籍所を立てた。世祖の世に之を宏文院と稱ぶ。祕書監をおいて圖書を掌らしめた。併し目録の徵すべきものがないので、幾萬卷を藏したか分らない。

元が亡んで明が大都に入るやうになつて、館閣の書を南京に輸送した。太祖及び成祖は更に異書を天下に求めて南京に藏した。成祖の時代に『永樂大典』を編纂せしめた。この中には珍籍に富んで居る。都が北京に移されると、南京の藏書を割いて北京の新都に送つて、兩都に分藏した。北京のは文淵閣に藏せられた。

英宗の正統六年『文淵閣書目』を編す。南京の藏書は大火に遭つて失せ、文淵閣の書も萬曆の時代に及んで大半は散佚して了つた。

第二節 清代の『四庫全書』

以上述べた處に依つて知られるやうに支那に於る書籍の集藏史は、畢竟するにその散亡史であつた。易姓革命毎に散佚される。よく散佚されるけれ共、又不思議にも蒐集される。而もよく蒐められるとは云へ、それは多くは收藏のための收藏ではなかつたか。所謂圖書館の本義たる『利用せんが爲めの蒐集』ではないであつたらうか。成程收藏されると共に丹念によく藏書目録は作られて居る。併し一般公衆の利用を目的とする近代圖書館の様相と異なるものあるを見出されないだらうか。右の記述は王室を中心とした圖書の收藏であつた。それと共に私人の間に於る蒐集や藏書も、必ずや見るべきものがあつたであらう。併しそれらに就てはこゝで餘り觸れない事とする。

隋の牛弘が『清開獻書表』に於て書籍の五厄を敘して居る。それに依れば

第一厄 秦の始皇の時に書を焚きたる

第二厄 新の王莽の時長安の兵亂に依り書籍を蕩盡したる

第三厄 後漢末葉董卓が遷都の後長安の大亂に依りて書籍の燔蕩したる

第四厄 西晋の時石勒劉曜の洛陽長安を陥れ、典籍の散佚したる

第五厄 南北朝の時梁の元帝が西魏に攻められ、自ら書庫を焚きたる

を擧げて居るさうだ。然るに支那に於る書籍の災厄は只之だけでは濟まなかつた。

胡元瑞の『經籍會通』に於ては更に五厄を指摘すると云ふのだ。即ち

第一厄 隋末江都に於て焼けたる

第二厄 唐の安史の亂に東西兩京の陥りたる時に書籍の散佚したる

第三厄 唐末黃巢の亂に長安覆没して書籍また災厄を蒙りたる

第四厄 北宋末金入汴京を陥れて城中の書物を運び去りたる

第五厄 南宋の末蒙古の臨安の都に入りたる

などである。是に依つて見れば、秦より南宋まで十厄をなめねばならなかつた。のみならず元末、明末の兵亂相次ぎ、禪讓篡奪が絶え間なく相續く有様であつた。是ではいかに圖書の集藏に惟れ努むるも、むしろ徒勞であるときへ思はれる。かくても尙今日に傳へられるのが、むしろ奇蹟と云はねばならぬ。

支那の書籍をして散亡せしめたるもの、かゝる兵亂のみに止らなかつた。腐蝕も大いにその因をなして居る。蓋し『家屋の構造』と『紙類の性質』とが之を助けて居る。元來支那の紙類は非常に多い、序に之を茲に記しておかう。蔡倫が作つたものは麻紙、穀紙、網紙であつた。王羲之は蠶繭紙を用ひた。唐紙には麻紙最も多く、黄麻白麻の別がある。詔勅冊書などにも用ひられた。

宋代に於ては蜀の出版は麻紙、閩の出版は竹紙、浙のは麥蘗稻稈紙である。明代に至ると、永豐綿紙、常山東紙、順昌書紙、福建竹紙と云ふ風になつて居る。清朝に及んで普通の版本に用ひられた用紙は、連史紙、賽連紙、毛太紙などで、皆脆弱なものであつた。よしんば戰亂の影響なくとも、永久の貯藏に適するものでなかつた。即

ち支那書籍の散佚をなす大きな理由となつて居る。

兎も角右のやうに種々な事情で明の典籍も亦散佚の已むなきに至つた。併し是とて他日蒐集の因をなしたと云へる。寧ろ是はあるが故に、次代の清朝乾隆年間に『四庫全書』と云ふ、稀有の大編輯を企圖せしむべき因由をなすのであつた。

『四庫全書』とは清の乾隆帝が蒐集した一大叢書の名である。北京の文淵閣に是を藏めた。今猶北京城内に現存す。明初北京城内に於る文淵閣に收藏された書籍は正統年代になつた『文淵閣書目』に依つて知られるけれど、嘉靖より萬曆年間に、それらの書籍は散亡した。完全に殘存せるものは僅々十分の一に過ぎない。兩餘のものは、殘缺と闕とに屬す。然るに清朝の代になつて歴代の皇帝は學を好んだ。康熙帝がさうであつたし、雍正帝もさうであつた。康熙帝は現に自ら勅して編纂せしめたものは『圖書集成』を始めとし、『欽定四經』や『康熙字典』等二十餘種に及んで居る。之等好學の王を父祖とする乾隆帝も深く學を好んだ。従つてこの時代に學者を集めて編纂せしめた書籍は實に夥しい數に上つて居る。

その主なるもののみにも殆んど枚舉に遑ない位である。

かゝる好學に加ふるに文運大いに開けた事が、この全書を企てしむるに與つて力あるは云ふ迄もない。思ふに類書のなれるはその由來、極めて古い。例へば魏の皇覽、隨の聖壽堂御覽、唐の藝文類聚、明の永樂大典の如きは皆類書に屬す。然るに類書は原書を割き、類を分つて編纂するのであるから、原書を見ようと云ふものには満足を與へ得ない。乾隆帝の時代に至つて、文化大いに開けたる頃には、益々原書を見ようとの希願が熾烈になつた。『四庫全書』出現の要望は、かくて愈々切實となつた。書籍蒐集のことは既に康熙時代に始つて居たから、全書の端緒は康熙時代に開かれたと云はれよう。

『四庫全書』の原本となり材料となつたものは

1. 勅撰本
2. 内府藏本
3. 永樂大典本

4. 各省採進本
5. 私人進献本
6. 通行本

の六種が有る。更にその本をば存書と存目とに分けた。前者は實際にその本を著録したのであるが、後者は只その目録を記するに止めた。

◎ 勅撰本

清初より乾隆時代迄の勅に依り編纂されしものを云ふ。種類が頗る多い。四庫全書は著書の時代に依つて排列されて居るが、勅選本は必ず清代の最初に列してある。今この主なる書目を記して参考に供しよう。

- | | |
|------|------|
| 圖書集成 | 欣定四經 |
| 朱子全書 | 性理精義 |
| 數理精蘊 | 曆象考成 |
| 律呂正義 | 音韻闡微 |

第一篇 圖書館の歴史

歷代紀事年表 全唐詩

全金詩 四朝詩

古文淵鑿 歷代賦彙

子史精華 駢字類編

分類字錦 佩文韻府

佩文齋書畫譜 同詠物詩選

淵鑑類函 廣群芳譜

康熙字典

以上康熙時代編纂

周易述義一〇卷

詩義折中二〇卷

周官義疏四八卷

儀禮義疏四八卷

禮記義疏八二卷

春秋直解一五卷

律呂正義後編一二〇卷

詩經樂譜三〇卷

同文韻統六卷

叶韻彙輯五八卷

音韻述教三〇卷

明史三三六卷

遼金六三史國語解四六卷

皇清開國方略三二卷

御批通鑑輯覽一一六卷附

唐桂二王本末三卷

通鑑綱目三編四〇卷

續通典一四四卷

續通志五二七卷

續通考二五二卷

皇朝通典一〇〇卷

皇朝通考二六〇卷

滿洲氏族通譜八〇卷

皇朝通志二〇〇卷

宗室王公功績表傳一二卷

蒙古王公功績表傳一二卷

勝朝殉節諸臣錄一二卷

臺灣紀略七〇卷

大清一統五〇〇卷

日下舊聞考一二〇卷

熱河志八〇卷

滿洲源流考二〇卷

平定準噶爾方略前編五四卷

正編八五卷續編三三卷

第二章 支那に於ける圖書館史

第一篇 圖書館の歴史

平定兩金川方略一五二卷

皇輿西域圖志五二卷

國子監志六二卷

大清通禮五〇卷

國朝宮史三六卷

康濟錄六卷

經史講義三一卷

曆象考成後編一〇卷

石渠寶笈四四卷

唐宋文醇五八卷

皇清文頌一二〇卷

七六

蘭州紀略二〇卷

盛京通志一二〇卷 外各省の通志あり

歷代職官表六三卷

〔皇朝禮器圖式二八卷

滿洲祭神天典禮六卷

淳化閣帖釋文一〇卷

儀象考成三二卷

協紀辨方書三六卷

秘殿珠林二四卷

唐宋詩醇四七卷

以上乾隆時代編纂

◎内府藏本

康熙以來宮廷に収集されたるものを收さむ。

存書

存目

經 八十八部

三十二部

史 五十九部

六十一部

子 百一部

百五十五部

集 七十八部

百十九部

計 三二六部

計 三六七部

◎永樂大典本

『永樂大典』のなかから拔出されたものを云ふ。『永樂大典』とは前にも記したやうに、明の成祖が永樂元年解縉等に命じて古今の書を纂錄せしめたものである。六年の十一月に成る。凡そ二萬二千八百七十六卷、目錄七十卷である。稍々百科字典の稿本に類す。編纂に關係した二千六百十九人に賞與を賜はつたと傳へられる。清朝に至つて存在した大典は唯一本であつて、翰

林院に藏せられて居た。之を抜いて四庫全書に加へられた。

存書

存目

經 六十六種

九種

史 四十一種

三十六種

子 百三種

六十六種

集 百七十五種

十一種

計 三八三種

計 一二二種

◎各省採進本

各省の總督巡撫に命じて遺書を集めて進獻せしめたものである。このために上諭が再三下された。採書の最も多かつたのは浙江である。兩浙江蘇及兩淮の鹽政使之につぐ。『浙江採集遺書總錄』によると、其總數四千五百二十三種、五萬六千九百五十五卷、別に卷を分たざるもの二千九十二冊に達した。

◎私人進獻本

私人の進獻本も各省督撫の手を経たものであるが、その種類の多かつたものは、特にその姓名が録せられたから各省採進本と區別した。清初藏書家として名高つたのは、

浙江寧波の范氏——天一閣

同 慈溪の鄭氏——二老閣

同 杭州の趙氏——小山堂

同 嘉興の項氏——天籟閣

同 朱氏——曝書亭

江蘇常熟の錢氏——述古樓

崑山の徐氏——傳是樓

であつたが乾隆時代には、已に散して他姓に歸したるものも少くなかつた。乾隆時代の藏書家は

浙江——鮑士恭、汪啓淑、吳玉墀、孫仰曾、汪汝霖

第二章 支那に於ける圖書館史

江蘇——周厚瑄、蔣曾瑩

兩淮——馬裕

の如きが知られて居た。

◎通行本

世間に流布せる普通の書籍であつて、「四庫全書」に收められたのは、割合に少い。

かくて乾隆三十八年より四十七年迄四庫全書館をおき、翰林院を辨理處となし、武英殿を謄寫處とし、諸官制を定め編纂せしめた。當時宮廷に藏せられた書籍の外、新到北京に集つたもの甚だ多かつた。一萬三千餘種に上つたと云ふ事である。斯んな事情で四庫全書に收められた存書存目の總計は一萬二百二十三部、十七萬二千六百二十六卷の多數に上つた。乾隆帝は紫禁城内に文淵閣、圓明園に文源閣、奉天に文溯閣、熱河に文津閣を造つて貯藏の所となした。是を内廷の四閣と云ふのである。かく苦心蒐集のものも又團匪の亂に於て、兵火の災厄にかゝつた。

併し北京奉天熱河等のもの丈はその災を辛うじて免れて今日に及んでゐる。

(註——市村瓚郎博士、四庫全書と文淵閣に就て、史學雜誌第十三編第七、八號參照)

第三章 日本に於ける圖書館史

第一節 上古時代

紀元一三〇五年入鹿、誅に服し皇極天皇位を皇弟に譲り給ふた。孝徳天皇と申す。この朝に於ける大きな事象は『大化の改新』であつた。大化改新は云ふ迄もなく、當時の支那制度を採用したもので、所謂中央集權として氏族制度と相反するものである。詳言すれば、従前の氏族制度が土地人民を私有して、爲に氏族の強勢を來したのに對する改革であつた。従つてこの改新は公地公民の制度なのである。かくて中央集權の實を現はし、皇室の勢力を伸張せしめた。であるから是はやがて國民生活の一轉機をなした。國民活動の舞臺はかくて廣くなつた。わが國文化發達の基礎が是れに依つて定められた。つまりこの改革は之迄の時弊を

清算したと共に、將來に對しては、文化促進の機運を開いたものと見られる。唯それが唐制の模倣であつた事には、長所もあつたが、夫れに伴ふ缺點のあつたのも見逃がせない。

次で文武天皇の御代に至つて『大寶令』が制定された。紀元一三五七年持統天皇の禪りを受けて位に即き給ふたのが文武天皇に坐はす。今日我々が普通に大寶令と呼んで居るのは、養老年間に多少の修正されたものを指すのであるが、大體は文武天皇の時定められた處に依る。律令と云へば常にこの時が中心とされる。併しもとよりその端は大化の時に存する。大化の改新に際して、彼の制度を採用した以上、當然國家の法制を確立する事は必要であり、又夫れに依つて改革の基礎を堅くするものと云はねばならぬ。律令制定の内容をば今日詳知する事は出来ないが、書紀に依つて色々の改革を知り得るであらう。即ち内外の百官を始め、土地並に税制は勿論、地方制兵制より僧尼の製造、この時定められて居るのである。元來この律令は刑部親王藤原不比等に勅して撰定せしめ給ふたものである。

即位の五年を以て大寶と改元せられた。大寶元年(西紀七〇一年)三月、新令に依つて官名位號が制せられると共に、宮廷の格儀、官廳の職司が定められた。その官制のなかに中務省と云ふのがある。それは行政官廳ではない。天皇と太政官との間に立つて、詔勅を傳へ、論奏、覆奏などを取次ぐところである。中務省の被官に左の職寮司があつた。

中宮職

皇后、皇太后、大皇太后を通稱して中宮と稱す。太夫は啓令を吐納することを掌る。

圖書寮

陰陽寮、大舍八寮、左内藏寮、縫殿寮

内匠寮

内藥寮

内禮司

畫工司

等である。こゝに注目に價するのは圖書寮である。つまり國家の文庫に對する名稱なのであつた。之を以て我國圖書館の最初と云ふ事が出来よう。官制の上から之を證せられる。もとより圖書寮は政府の圖書經文等を保管し、國史編纂の事をも兼ねた。これ等の圖書は、爲政者の參考に供する外、大學の學生、親王等にも

閱覽を許したものである。この外地方にも官設の文庫があつた。太宰の「府庫」の如きが即ちそれである。

こゝに大學の學生とあるが、事實同じ官制のなかに大學寮と云ふのがあつた。大學寮は、式部省に屬する。式部省とは官吏の能不能徳不徳に依つてその進退を定める處である。その所管には大學寮の外散位寮が屬して居た。大學寮に頭、助允、屬あり、又博士、助教、音博士、書博士、算博士及び學生四百人、算生三十人等があつた。

佛教の傳來が我國の文化史の上に深甚の影響があつたのは云ふまでもない。繼體帝十六年に韓人が佛像を傳へたけれども、國人は異邦の神と稱して信崇しなかつた。欽明天皇の六年更に百濟國が丈六の佛像を造つて功德を祈つた。是等の事が佛法傳來の先導となつた。次に天皇の十三年百濟の聖明王が、佛像の外に經論若干卷を獻じた。こんな事から次第に朝廷論題の對象となり、果ては政争のなかに迄入る次第となつた。遂には永い間日本文化の指導地位さへ確保するに

至つたのであるから、この方面に關する文献が次第々々に多數になつて、諸々の寺院の經藏中に收められた事は、疑ふ可らざる事實であらう。殊に世界最古の木造建築として名高い法隆寺、次に東大寺や興福寺等々には多くの經典が藏せられた。法隆寺には寶龜四年(西紀七七〇年)に印刷された四種の陀羅尼が、多數藏せられて居る。これは世界最古の印刷物として、特記に價するものだ。

この時代に於て今日の公共圖書館の先驅とも云べきものの存在した事は、むしろ我等の驚異に價すると共に、我等の大きな誇りである。即ち奈良朝の末寶龜年中、石上宅嗣卿が奈良にその舊宅を捨て、阿闍寺とし、その一隅に外典(儒書)院をおいて文庫となした。之を「芸亭」と名付けた。來つて閱覽を乞ふものに自由に之を許した。現在の圖書館と全く同一趣旨に出でて居る。昭和五年十月十八日、奈良縣山邊郡、石上神宮西區なる天理圖書館の前で、石上卿千五十年祭典と、その顯彰碑除幕式が擧げられた。碑の選文者は京都帝大圖書館長新村博士である。かくて石上卿は我國圖書館事業の最功勞者である。繁を厭はずこゝに同博士の

碑文の全部を書き記して、わが圖書館の先驅に就て、一般の参考に資し度い。

石上朝臣宅嗣卿顯彰碑

石上朝臣宅嗣卿ガ奈良朝ノ晩季寶龜年間ニ方リ平城京ノ一隅ニ創立セシ芸亭院ハ我國公開圖書館ノ權輿トセラルル卿名族ニ出デ父祖共ニ國史ニ顯ハレ且文學ノ譽アリ卿儀容閑雅經史ヲ尙ビ山水ニ親ミ詩歌ヲ能シ書道ニ達セリ和歌ハ萬葉集ニ錄セラレ詩賦ハ經國集等ニ存ス又佛敎ヲ篤信シ其舊宅ヲ捨シテ阿闍寺ヲ營ミ寺内特ニ外典ノ院ヲ置キ名ケテ芸亭ト云ヘリ好學ノ徒ハ出入シテ自由ニ圖書ノ閱覽ヲ聽ルサレ讀書ノ傍兼ネテ塵世ヲ超越シテ修養ノ靜境タラシム惠澤ヲ被ムリテ著ハレシ者ニ賀陽豐年等アリ惟フニ金澤氏ノ文庫設立ヲ遡ルコト約五百年而モ卿ガ徒ニ典籍ヲ收藏スルニ止メズ弘ク之ヲ公衆ニ開放シテ利用ヲ獎メタル一事ハ近代以前殆之ヲ見ル能ハザル所ニ屬シ眞ニ本邦上世文化史上ノ異彩ト稱スベク且東西圖書館史上ニ特筆スルニ足レリ惜ムラクハ人去ツテ跡穢レ存立僅ニ數十年ニ至ラズ平安朝初期

以降其院廢スルコト既ニ久シク遺址ノ明ニ究メ難キヲ憾メリ是ニ於テカ芸亭ヲ表彰セムト欲スル者假ニ石上氏發祥ノ地ヲ選ビテ碑ヲ建テ宅嗣卿敬仰ノ意ヲ致サムトスル亦止ムヲ得ザルニ出ヅ按ズルニ石上氏ハ神別物部姓ノ流ヲ汲ミ饒速日尊ノ後裔宇麻志摩治命ヲ祖トシ古ク石上神宮ノ西邊ニ住シキ今其舊跡ヲ察スルニ天理圖書館新營ノ處ヲ隔ツルコト遠カラザルニ似タリ卿此土ニ起リテ官ハ大納言兼式部卿ニ上リ晩年 桓武天皇東宮ニ在ハシシ頃其傳タリ位ハ正三位ニ進ミ天應元年六月薨ゼシ時詔シテ正二位ヲ贈ラレヌ即今玆昭和五年ヲ去ルコト殆千百五十年前トス蓋其生誕天平元年ヨリ算スレバ本年ハ正二千二百年ニ當レリ是ヲ以テ本縣圖書館ノ從事者愛護者等相共ニ首唱シ廣ク之ヲ遠近各地圖書館員並ニ日本圖書館協會ニ計リ協心戮力芸亭記念ノ業ヲ企テ以テ卿ノ德澤ヲ鑽仰セムトス而シテ首唱者撰碑ノ事ヲ予ニ囑セリ予詞章ニ嫻ハズト雖モ卿ヲ欽慕スルコト甚深シ乃通俗ノ一ヲ草シテ普及ニ便ニス」云々

奈良朝末期に當つて即位し給ふた光仁天皇は明君に在した。前朝の弊を矯めんとして種々な改革を試み給ふた。即ち寶龜五年には地方制度を釐革せられ、更に兵制が更革された。併し弊の久しきこれを以てしては人心なか／＼に改まるべくもなかつた。かくて次に立ち給ふた桓武天皇は地を山背國葛野郡宇太村の地を相して遷御遊ばされた。延暦十三年七月の事である。詔し給はく「此國山背國は山河襟帯して、自然に城をなす。形勢に因りて新號を制すべし、宜しく山背國を改めて山城國と爲すべし」と。後數年にして新京の經營全くなつた。民來つて、之を謳歌し、稱して平安京と云ふ。思ふに奈良朝の腐敗は光仁朝に至つて稍々矯正されたとは云ふものの、尙帝都を遷して人心を一洗する事は、當時の事情上蓋し必然的なものである。加ふるに大化の改新以來、社會の文化は次第に向上發展して、一般の事物も益々大規模を要するから、中央政府の地も亦隨つて、之に適應しなくてはならぬ。然るに奈良の帝都は斯る要求に適しない。遷都は斯て自然の勢であつた。爾來一千餘年の間日本文化はこゝに花を咲かせ、實を結ぶのであ

つた。他方この時代前後に、假名が創作された事は、文化普及の上にか許りの貢獻であつたか分らない。直接には和歌和文が發達し、續いて女流文學が殷盛を來すのだつた。

併し男子は漢文を學んだので、大學はその研究所であつた。他方に又官吏養成所を兼ねてゐたので、有力な貴族は一族子弟の教育の爲めに、私學を設けることが流行し、弘文院、文章院、勸學院、學館院等が設立された。そしてこれ等の學校には、各學校文庫を持つてゐたやうである。弘文院に内外の經典數千卷を藏してゐたことは記録に明かである。次に第七十八代に二條天皇の永滿元年(西紀一一六五)に、前に述べた政府の文庫、圖書寮の外に、他の重要な政府の文庫が設立された。官務文庫又名小槻家文庫、壬生文庫がそれである。これは政府の記録文書を司る小槻家の文書館として建てられたもので、歷朝非常にこれを大切にされたので、江戸時代まで千餘年の間續いてゐた。この外に寺院文庫は益々その藏書を加へ、又奈良時代になかつた私人の文庫も次第に増して來た。最も有名なもの菅原道真

〔文徳天皇の天安二年——醍醐天皇の延喜二年、西紀八五八—九〇六〕の「紅梅殿」である。この文庫のお蔭で高等文官の試験に合格したものが、百人もあつたとのことである。又大江匡房〔後朱雀天皇の長久二年——鳥羽天皇の天永二年、西紀一〇四一—一〇二二〕も、千種の文庫といふ大きい文庫を建てた。藤原頼長も亦近衛天皇の久安元年〔西紀一一四五〕に「宇治文庫」を建てた。この宇治文庫は、この時代中最も有力な文庫であつた。全藏書を四部に分類し、全經、史書、雜說、本朝とした。和書が一類を形成することは日本人の著作が如何に豊富になつたかを示めすものである。

この時代に注目すべきことは、日本國現在書目録といふ圖書目録が始めて出来たことである。これが京都が大火災で多くの貴重圖書が滅びたに鑑みて、勅命によつて藤原佐吉が第五十九代宇多天皇の寛平年頃〔唐の第十九代昭宗代、西紀八九〇頃〕の著作である。支那で現存の最古の「隋書經籍誌」について古い圖書解題であるから實に貴重な文獻である。包含するところ千五百七十九部、一萬六千七百九十卷に上り、易家、尙書家、詩家、禮家等四十類を分ちて、當時現存の書目卷數等を標記

したものである。

第二節 中古時代

平安朝時代に榮華を極めたものは藤原氏であつた。道長一門の榮えである。併し華かなりし彼一族の榮耀も、ソロモンの夫のやうに野の百合の如きものであつた。幾程もなくその勢力は失墜し、社會は動亂の時代に入つた。この動亂の中に現はれて、再びその中に亡びて行くのが、即ち平家であつた。即ち藤原氏の政治に代つたものが、院政であつた。この院政も間もなく最初の理想を失つて、次第に極端な専制政治に墮落して來る。院政の墮落が、やがて保元の亂として現はれた。この皇室及び貴族の間に蟠つて來た、錯雜した關係を解決するものとして働いたものが武家であつた。從來主として地方に養はれて來た武家の勢力は漸く中央に向つて、逆流して來る事になつた。保元の亂に依つて時勢は急變した。引き續き平治の亂が起つて、世は愈々平家の擅權時代に移る。僅々二十年の間ではある

が、この後平家なる武家が京都の指導的地位を占める事となり、院政の理想は遂に果敢なき夢に終る。

この平家も間もなく西國壇の浦にその最後の記録を止めて、やがて鎌倉幕府が頼朝の手に依つて開かれる。平家の都落ちは壽永二年(西紀一一八三年)七月である。頼朝が鎌倉を以て政治の策源地と定めたのが治承四年(西紀一一八〇年)十月であり、征夷大將軍に任ぜられたのは建久三年(西紀一一九二年)七月となつて居る。かやうな工合に貴族の政權は完全に武門に移つた。政治の狀勢は封建の時期に入る。武士は性質として、武藝にのみ専らであつて、文教に對しては冷淡であつた。又武家はその職務上生死を賭してかゝらねばならぬ。處が是には餘程精神的修養を積まねばならぬ。もとより夫れは主従關係その他の道徳的訓練に依つても得られるけれども、その終局は宗教の力によつて精神の鍛鍊をつまねば完全なものとはなり得ない。併し舊來の加持祈禱を主とする密教は、この目的に添ふ事が出来ない。新興の禪宗は自己の修養鍊磨によつて悟道に入るを得ると云ふ。そ

こが武士の修養にはまことに格好なものであつた。つまり直指人心、見性成佛と云ふ教理が、武人の心理に適應して居たため、次第に武士の間に迎へられた。

そこで文教に就ては、僧侶殊に武門と因縁深い禪僧が勢ひその全權を握るに至つた。京都に於てはこれ等禪僧の研學は佛儒兩教を兼ねた。詩文は五山文學として一派をなした。一方出版が盛んになつた。元來わが國に於る印刷事業は、早くもその端緒を奈良朝に發して居る。さきにも記した如く、稱徳天皇の寶龜元年に、法隆寺を始めとする十大寺に納められた四種の陀羅尼は、世界最古の印刷物の現存せるものとして喧傳される。後鎌倉時代迄は餘り振はなかつた。併し佛教文化は奈良朝以後も引續いて盛んであつたから、その方面で出版事業は行はれた。資料も少しは傳つて居る。即ち傳教、版、義、眞の點本などと呼ばれて居るものが、叡山に於ける出版物と普通に認められる。又奈良の僧觀増が開版した由を印刷した成唯識論や、之に類似した版式を持つた佛典數種が春日版と呼ばれて、興福寺を始め、南都諸費の出版的所産である。

この春日版が鎌倉初期から中期にかけて盛んであつた。その後を受けて活動したのは、高野山に於ける出版事業である。密教及び悉曇關係の書籍が相次いで出版され、世に高野版と稱せられる。これには出版上の規定迄出来て、盛んに事業が行はれた。かく盛大に起つたことには一大理由が存する。即ち秋田城介泰盛なる一大後援者が存在したのによる。彼は北條執權とは姻戚關係に在り、又高野山とも深い因縁をもつて居た。建治三年に大日經疏の開版事業を起し、次で弘安二年に二十卷の開版を大成した。かくもとく僧侶の事業であるのに、武家の勢力が加はつて大をなしたのは武家が、當時社會の中堅であつた事を語るものである。かゝる出版事業は幕府當局の保護を受けなかつた。總じて當代政府の文化事業には見るべきもの極めて少い。公家社會ではその手になつた史書所謂鑑と云ふべきものがあつた。之に對して、武家社會に於ても、亦鑑となすべきものが出来た。それは幕府で編纂した吾妻鑑である。本書は治承四年四月高倉宮の討平氏令旨の煥發に始るのだ。鎌倉幕府の諸般の行動を記載し、文永三年七月將軍宗尊

親王の京都送還を以て終つて居る。つまり鎌倉幕府の大切な歴史であつた許りでなく、後世の諸武家に於る愛讀の書であつた。かく至つて少い幕府の文化事業のなかにあつて、三好善信の事業は注目に價する。鎌倉幕府問註所の執事、三好善信は、鎌倉幕府の文書記録及び貴重書類を藏して、名越文庫と名づけてゐたが、土御門天皇の代、承元二年(西紀一、二〇八)に焼失した。

我國は家屋が木造であるために、戦亂よりも寧ろ火災によつて貴重な文獻が亡はれるのである。この時代に於ける最も有意義な文庫は、半公開の性質を有したのと、學者が多く集つたことによつて知られてゐる、金澤文庫と、足利學校とである。金澤文庫については確かな起源は不詳であるが、北條執權の一族である實時の文庫に始つたらしい。實時の孫顯時、その子眞顯、皆好學の士で、鎌倉附近金澤郷(六浦莊)の稱名寺境内に書庫を設けて、支那の善本を選び備へ、諸人の閱覽に供したので、當時學問の中心であつた。この文庫はその後衰へたので、上杉憲實が再興した。上杉氏は關東管領家であるが、彼は又、足利學校の再興者として功績しるきもので

ある。この起源は甚だ不分明であるが、多分一時衰へたものを、校舎まで再建したものであらう。永享十一年(西紀一四三九)校舎の修理全く成り、鎌倉圓覺寺の僧快元を招いて校主(學校住職)として講筵を開かした。この文庫には又儒教の數本を蒐集し、戰國時代の文化の一中心としての地位を保つたのである。この外一條兼長は國文學上忘るべからざるものであるが、彼は自分の文庫を「桃華文庫」と名づけ、本居宣長の説によると三萬五千卷の藏書があつたらうとのことである。

第三節 近古時代

織田豊臣から徳川の治政迄をこの期とする。安土桃山時代から江戸時代を指す。織豊時代に端を發した封建制度は、江戸時代に入つて全くその形を整へた。歐洲に於ては近世に及んで、多く封建制を打破し、中央集權的の國家を打建てたに反し、我國では近世に入つて、却てその發達を見るに至つた。蓋しこの現象は主として都市の發達、火藥の使用、王權の強弱などの點に於て、彼我その程度、性質を異に

して居るからである。即ち彼の都市はヴェニスにしる、ハンザ諸市にしる、みな自營的都市であるのに、我國の都市は何れも武家の手によつて發達し、又その保護のものにあつたから、武力を制壓する事は出来なかつた。又歐羅巴では、火藥の發明の結果大砲が多く使用され、諸侯の頼みとする城廓も之を支へるに術なく、次第に一君主のために統一された。我國では天文年間より鐵砲が傳へられたとは云ふものの、多くは小銃であつたため、却て宏壯なる城廓の築造となり、封建制度を促進した。而も皇室は戰國時代以來、式微の極に達し、現實的の政治圈外に立たせられた状態で、江戸時代の完全なる封建制を出現せしめた譯である。

家康はこの封建制を維持せんがため細心の注意を拂つた。大方は源頼朝の制度方策を襲用した。開府の場所、對朝廷政策、大名配置法など、一として然らざるはない。政治機關の如きも、名を捨て、實をとるの主義で、三河以來のものをその儘用ひ、之に任ずるには譜代の臣を以てし、いかに才幹ありとても外様大名は之に與らしめなかつた。寺院に對しても同様で、寺院法度を設けて抑制し、役寺を江戸に

置いて取締りに便ならしめ、本願寺を二分して、その勢力をば殺いだ。然るにかゝる武家主義も次第に變調を來し、延いては幕府の基礎を動かすに至つた。主なる原因は制度が時代に合はないのと、學問の興隆とであつた。即ち時代の潮流は滔々として、武家主義より文治主義に轉向した。加之文學興隆の結果は學者の政治參與となり、益々この傾向を助長せしめた。

かくてこの期は割合に長く平和が続いた。佛儒兩教が融和し、日本固有の精神に結びついたため、東洋文化の集大成と庶民文學の勃興とを見る事が出來た。他方西洋の文化が次第に輸入され、最後に鎖國政策は棄てられ明治以後の新日本へと進展した。この期に入つては佛敎の勢力はむしろ前代より衰へ、儒學が旺んになり就中朱子學は官學として最も勢力を得るに至つた。現に家康は林道春をあげて顧問とした。四代家綱の補佐役は保科正光であつた。五代將軍綱吉に至つては、彼自ら既に一廉の學者であつた。それ許りでなく、家康は關ヶ原役の翌年、伏見の圓光寺に學舎を設け、足利學校の長老三男を校主として僧俗の入學を許した。

これ所謂洛陽學校と呼ばれたものである。學校教育の興つたのは、更に綱吉が昌平坂學問所を開いたのに始まる。これより諸大名も次第にその風に倣つて、藩校を設くるに至つた。

かやうに家康は學校を興して文教を以て政策中の重要なものとしたのみならず、自ら出版事業をも督勵する處あつた。彼は江戸城内に「富士見亭文庫」を建て、ここに貴重書や幕府の記録を藏した。この文庫は後「紅葉山文庫」と改稱されたのであるが、非常に大切に保管され御書物奉行が司つた。「重訂御書籍目錄」なるこの文庫の目錄によると、漢籍約四千七百部六萬七千卷、和書約六百部四千五百卷ある。

前述家康の印刷業獎勵以來、將軍又は諸侯の中にも斯業を興すもの少からず、又私人で印刷をするものも殖え、他方に一般向學心の發揚に伴ひ出版を專業として經營するまでに盛んになつた。かくして官立の學校も、私塾も皆相當の文庫を持つことになり、明治以後の各種圖書館は、これ等の學校文庫を基礎としたものが多く、又一方には從來の官設文庫や諸侯の文庫、又は私人の藏書を中心としたものが

少くない。その中で顯著なものは伊勢の「神宮文庫」である。これは伊勢神宮に關係のある二つの文庫「宮崎文庫」「林崎文庫」が明治以後併せられたもので、神道に關する貴重な書が收藏されてゐる。

諸學者は大抵皆文庫を持つてゐた。新井白石は自分の文庫を希望者に閱覽せしめ、板坂卜齋はこの時代の初めに、東京に「淺草文庫」を建てて公開した。又仙臺の青柳文藏は「青柳文庫」を建て、これを公開した。その外秋田の了翁禪師(寛永七年—寛永四年)は、寛文十一年(西紀一六七二)上野不忍池に小島を築き、こゝに文庫を建てた。内外の經典を始めとし、本朝の有ゆる書籍を集め、江湖講學のものに自由閱覽の便宜を與へた。これは江戸時代に於て最も進んだ公共圖書館であつた。了翁の禪師納經弘願、文獻の蒐集、教化救濟の事業について、多くの記すべきものがあるが、こゝには省略する。又民間には、貸本屋があつて趣味多き通俗小説類を美しくしい錦繪の袋に入れ、それを背負つて家庭を訪問しものだ。今日の所謂圖書館外貸出しの最も進歩した形式をもつたのである。で、徳川時代の庶民教育には、こ

の貸本屋は中々功績があつたと云はねばならぬ。市立無料圖書館の發達と共に、今日では次第にその數を減じ、僅かに所々にその名残りを止めて居る位のことである。

第二篇 圖書館の現況

第四章 歐米圖書館の現況

第一節 主要圖書館の藏書

現代の圖書館の中で、大きな公共圖書館に並んで素晴らしい位置を占めて居るのは、大學所屬の圖書館である。之等の設立は大學のそれと離すべからざる關係に在る。あるものは十四世紀まで遡る。近世の創建にかゝるものとしては、エルランゲン大學圖書館がある。これが一七四三年の設立である。伯林大學圖書館はそれよりやゝ遅れて、一八一〇年に建てられた。ボン大學圖書館が一八一八年である。その大きさと組織の完備せる點で普く知られて居るのが、一七三七年設立のゲッチンゲン大學圖書館であらう。大きな中央圖書館としては、巴里國民圖書館がある。こゝには二百五十萬以上の印刷に附された書籍と、十萬を超えた手

寫本を藏して居る。倫敦の大英博物館とワシントン議會附屬圖書館はその規模の雄大さに於て、先づ第一に指を折らるべきものだ。獨逸では然らばどうであらう。獨逸に於る中央圖書館は一九一三年ライプチヒに建てられたものだ。伯林のプロイセン國立圖書館の書籍は現在のところ百四十萬卷、手寫本三萬冊を數へると言はれる。我等が忘れてはならないものに、國民圖書館と市町村の圖書館がある。それらの内で或るものは個人に依つて建てられ、あるものは公共團體の手に依つて設立された。或は國民文化普及會の活動に依つて出來上つたものもある。かく大衆の啓蒙運動として大衆に健全なる書籍を提供する任に當らうとして居る。(註—Herder: *Konversations-Lexikon* 3te aufl. 1921.)

以下少し歐米に於ける圖書館の概況(一九二六年現在)を表示して見るとしよう。(註—『圖書館雜誌』第一二七號に依る。)

所在地	圖書館名	創立年代	館長名	藏書數
Alberystwysh 英 國	National Lib. of Wales ウェルズ國民圖書館	1907	J. Ballinger	版本 約 450,000 寫本 6,500 古文書 60,000
Birmingham	Birmingham Pub. Libs. バーミンガム公共圖書館	1861	W. Powell	約 562,000
Cambridge	Lib. of Univ. of Camlridge ケンブリッジ大學圖書館	1862	H. Farr	約 301,100
Dublin	National Lib. of Ireland 愛蘭國民圖書館	1877	R. T. Best	約 300,000 外に寫本あり
"	Lib. of Trinity College トリニティ大學圖書館	1601	J. Smyly Gilbert	版本 380,209 寫本 2,145 1923年度

Edinburgh	Lib. of Ed. Univ. エジンバラ大學圖書館	1508		W. Dickson Kirk	版本約 8,000 1923年
"	Advocates' Lib. 辯護士圖書館	1682			版本約 750,000 3,200
London	British Museum Lib. 大英博物館文庫	1753		Sir F. Kenyon George	版本約 3,000,000 2,400 9,600 初期版
"	London Lib. ロンドン圖書館	1840		H. Wright	380,000
Oxford	Bodleian Lib. ボドレーン圖書館	1602		Cowley	版本約 1,000,000 40,000
獨逸					
所在地	圖書館名	創立年代	館長名	蔵書致	
Augsburg	Staats-Kreis-u. Stadtlib. 國立縣立市立圖書館	1537	E. Gebele.	版本約 320,000 2,300 15,000 古文書 版畫	

Berlin	Preussische Staat bib. 普魯西國立圖書館	1659	H. Kruss	版本 198,423 54,510 35,399 自筆物
"	Friedrich Wilhelm Univ. Lib フリードリッヒカイル ルム大學圖書館	1831	G. Klefeker	版本 300,000 100,000 地圖
Breslau	Staats-u. Univ. Bib. 國立及大學圖書館	大學創立 1506	R. Ochler	約 519,200
Göttingen	Georg-August Univ. Bib. グオグ・アウグスト大學 圖書館	1735-6	Fick	版本 700,127 7,078 寫本
Heidelberg	Baden-Ruprecht Karl's Univ. Bib. バーデン大學圖書館	1386	R. Sillib	版本 521,000 1,552 306,100 初期版本 論文
Leipzig	Bibliotheca albertina アルバート圖書館	1543	O. Glanning	版本約 725,000 6,500 寫本
München	Bayerische Ludwig- Maximilians U. B. バイエル大學圖書館	1472	A. Hilsenhach	版本 900,000 3,000 4,500 初期版本

München	Bayerische Staatsbib ライプツィヒ国立図書館	1558-71	H. Corolsfeld	版本 小冊子	1,500,000 234,000
Stuttgart	Landesbib. 地方立図書館	1765	E. Rath	版本 初期版本 寫本	718,000 4,627 5,843
佛 國					
所 在 地	圖 書 館 名	創 立 年 代	館 長 名	藏 書 數	
Bordeaux	Bib. de l'univ. de Bordeaux ボルドー大學圖書館	1879	H. Teulie	總 計 小 冊 子	350,000 214,500
Lille	Bib. de l'univ. de Lille リール大學圖書館	1883	Beaupain	版 小 冊 子	450,000 200,000
Paris	Bib. de la faculte des lettres et de sciences 文壇大學圖書館	1765	L. Barraw- Dilliego	版 本 文	700,000 130,000
"	Bib. de la faculte de médecine 醫科大學圖書館	1773	L. Hahn	版 論 本 文	234,000 170,000

"	Bib. nationale 國 民 國 書 館	1518	P. Roland- Marcel	版 寫 本 本	4,000,000 125,000
Strasbourg	Bib. univ. et regionale 大學及地方圖書館	1871	Wickersheimer	約	1,300,000
Toulouse	Bib. de l'univ. de Toulouse トゥールーズ大學圖書館	1879	G. Dacos	版 本 小 冊 子	166,311 200,444
米 國					
所 在 地	圖 書 館 名	創 立 年 代	館 長 名	藏 書 數	
Boston	Pub. L. of the City of Boston	1854	Belden		1,442,802 1928年度
Cambridge	Harvard University L. ハーバード大學圖書館	1638	Coolidge Cary	中 央 館 學 部 研 究 所 總 計	1,205,000 2,322,400 1924 年度
Chicago	General Lib. of Chicago Univ. シカゴ大學圖書館	1857 1892	E. D. Buston	約	700,000

Chicago Pub. L. シカゴ公共圖書館	1872	C. B. Roden	約 1,677,133 1928 年度
Cleveland Pub. L. クリーブランド公共圖書館	1869	L. A. Eastman	約 1,309,429 1928 年度
New York Columbia Univ. L. in the City of New York ニューヨーク大學圖書館	1754		大學圖書館 1,021,000 分科大學 319,000 計
New Haven Yale Univ. L. ハール大學圖書館	1701	A. Kaogh	1,397,000 1925 年度
New York New York Pub. L. ニューヨーク公共圖書館	1895	E. H. Anderson	2,541,258
Washington L. of Congress 議院圖書館	1850	H. Putnam	版 本 3,285,000 寫真版畫 1,000,000

それでは各國圖書館の一年に於る購入豫算は如何なるものであらうか。

巴里の國民圖書館	年額	一八二〇〇〇フラン
倫敦の英國博物館る圖書館	同	二二〇〇〇磅
セントピータースブルグ	同	五四〇〇〇留
伯林王室圖書館	同	一五〇〇〇〇馬可
ミュンヘン國立圖書館	同	七〇〇〇〇馬可
ワシントン國民圖書館	同	七一三〇〇弗
ストラスブルク大學地方圖書館	同	五六八〇〇馬可
ハンブルグ國立圖書館	同	二四〇〇〇馬可

第二節 圖書館の構造

圖書館の建築に於て、全體的なプランを立てる場合には、その建物の包含する圖書館の種類と経営組織が先づ考へられねばならぬ。昔に於て殊に多數の書籍を藏し、且つ利用するために建てられた例へばヴェニスサン・マルコ圖書館や、ヴェ

ルヘンビュッテル公所屬圖書館や、又は伯林の王室圖書館などでは、書籍の急激な増加や或は公衆の利用が次第に多くなる事なんか、まるで考へられて居なかつた。處が十九世紀末葉に及ぶと、書物を蔵するに *Stille* で戸棚の中の板に立てかけると云ふ始末である。書物の上列には梯子をもつて來て用を辨する有様だつた。この中央には一つ々々離れて低い陳列用と讀書用とを兼ねた柵があつた。之が即ち *Saalbibliothek* (廣間式圖書館) の始まりである。その好例は *Labronste* に依つて八一四九—五〇年に建てられた。

巴里で聖ジュネヴィエヴ圖書館と云ふのがあつた。二階建の建物でもつて、下には前室、側室の外に定期刊行物や銅版畫、複本、寫本など納めておく倉庫があつた。上階には天井の高さ十一米の廣間の讀書室があつた。入口に向つて壇の上に保管室がある。中央の柱の間に書棚があると云ふ鹽梅だ。かやうな廣間式の圖書館が流行して、之が英國に渡ると其の一變形が現はれる。アルコールヴェン式 (*Alkoven-system*) の廣間である。つまり *Saalmagazine* (廣間式倉庫) なのである。例へば倫敦協會圖

書館がそれである。斜めに外壁に立てかけられて、屋根にも届く許りの本棚が *Koje* (*Alkoven*) を形造る譯なのだ。上段の本は梯子を上つて取るのである。高さ三米半許りの棧敷には小階段で行かれる。角の部室は特殊書籍を蔵しておく。或は靜かに研究するのに使ふのである。狭い翼に當る所の中央には、暖爐が設けられてある。その前の壇上に管理人が一人居るやうになつて居る。

かゝる廣間式の圖書館に似て居て、棧敷式圖書館と呼ばれ、その部室の形が廊下のやうなのがある。その例は劍橋のトリニティ大學圖書館に於て見出されるであらう。廣間式圖書館は、場所塞ぎの上に一般に云つて取擴げる事が出来ないので困る。それ許りか、なか／＼掃除さへ困難な有様である。書籍を納れて居る處に、多人數が集るために不都合極りない。こんな次第なので倉庫式圖書館に壓倒されて了つた。倉庫式圖書館と云ふのは廣間式に倣つて考へたものであるが、讀書室、管理部屋、樂譜類、寫本、銅版畫、地圖等を蔵ふ部屋と並んで、この式獨特の書庫を設けるのだ。その各階を貫く部屋は中二階式に、どの部屋も二分されて居る。そ

れを階段が結んで居るのだ。この式によると厄介で危険な梯子はその必要がない。書物は脚下から積んであるので、最上列のものは踏臺の上に登つて手にすることが出来る。この書庫の内部を覗くためにライデン大學及び大英博物館の書庫を見ると、兩方とも照明は天窓に依つて居る。ライデン大學は屢々整理を行ふ好例である。裂目のある鐵板から出来て居る中間床が、木製書棚に約二十五種は丈光を通すやうになつて居る。それだから採光に至極便利である。また新しく整理を行ふ場合でも、それから受け渡しが出来る。

一體書物陳列に要する空間は平均百冊に對し、一平方米の表面積を計上して居る。現在の書物の一列の平均重量、二十疋から二十五疋と見れば良いであらう。高さ二米半、横一米の處に一列に書物を立てると、その重さは平均二百疋となる譯だ。二米半の距離をづらりと取つて各層を並べ、各層の表面積一平方米に、せいぜい百五十卷の書物を納めるのである。但しその際、階段、導光坑、側室などに要する

面積は、勿論除かなくてはならぬ。

倉庫式の建築で優れたものを列挙すると種々あげる事が出来る。即ち

- キール大學圖書館
- グラアツ縣圖書館
- ライプチヒ圖書館
- アウグスブルグ市立縣立圖書館
- スツットガルト圖書館
- 倫敦大英博物館圖書館
- ワシントン議院圖書館
- シカゴ公共圖書館
- ボストン公共圖書館

などが數へられる。

キーラー圖書館の書庫では、書物を置く床は五層となつて居る。一階では入口

の左側に文書庫、複本、地圖、銅本畫を藏ふ場所がある。一階と地下室の中間階に燧爐と側室とが設けられる。一八八一—八四年にかけグロビウスとシミーデンとの手で建てられた。三十七萬五千卷を收藏し、大體一九三〇年までの膨脹量は充分納める事が出来ると云はれた。外觀から言るとグライヴァルリのものに似て居るが、後者は幾分小作りである。グラアツ大學圖書館は一八九三—九四年の間にフォンレツォリの手で出来上つた。地下にも五層からなる書庫がある。讀書室はその側室よりも高く、高い處の側面から採光が出来る。これが書庫の天窓から中に入る事になつて居る。屋根裏は書物をおく床をして第六番目の層をなす。(註—Herders : Konversations-Lexikon.)

第三節 圖書館の維持

さてこれ等の圖書館の維持經營にはどんな方策が採られて居るか、重大な問題でなければならぬ。それに就て語らう。凡そ總ての事業の發展はその財政、收入

の確實性如何は、夫に至大の關係が存する。圖書館事業の如きも勿論その例に漏れる事は出来ない。ところがこの事業に限つて、何人がその局に當らうとも所謂持出しになるのは決つて居る。我國のやうにその收入が常に動搖し、或る機會や或は聰明人の一時的努力や寄進にのみ待つやうでは、頗る不安定なものと云はねばならぬ。かくては眞の發展を期待し得べくもない。かりに第一流の圖書館員を網羅し得たりとするも、一朝何等かの事情に遭遇する時に、堅實な計畫も脆くも遂行不可能に陥るの外ない。歐米の識者先覺は夙にこゝに着眼して、圖書館條例の發布と共に、圖書館稅 (Library tax) 制を設けた。かくて圖書館歳入維持のに充てて基礎を固くし、その發達を圖つて居る。課稅殊に目的稅は公の經費を支辨するに最も簡易にして公平な方法であるに違ひない。夫れ許りでなく、圖書館に對し公共の機關として、當然與へられなければならぬ正當な基礎が與へられる。その權威さへ昂める事が出来る。更に優秀な斯道の學者や、管理者を得る事も出来よう。今かゝる稅制を執つて居る歐米諸國に就て大要を述べる事としよう。

英國及米國

圖書館税を課すべき權限を地方官に與ふべき最初の諸案が、ウィリアム・エドワードの提議に依つて通過したのは一八五〇年であつた。かくて一八五五年、愛蘭、蘇蘭、英蘭の全部に亘つて、一般圖書館條例が適用された。庭園及び農業地に對して、僅かに免除又は輕減するの外、至所有物一磅に對し半片、課税される事になつたが、後一片(約我四厘)と改められ今日に及んで居る。最初その税の中からは一錢も書籍購入のために費してはならぬと規定されたが、後この制限は撤廢されるに至つた。かくの如くして始めて、英國の公共圖書館は、顯著な發達を遂ぐるに至つた。該税設定後七十餘年を経過した今日に於ては、三十年四十年前には夢想だもなし得なかつた程、その事業の發展を示しつゝあるのだ。即ち今日では

- a、小學校と聯絡して學校圖書館を管理すること
- b、兒童圖書館を設けて兒童の保護教化に力むること

c、大學の巡回講演部と提携し、若しくは各圖書館自ら講演部を組織して巡回すること

d、「國民家庭同盟」と協力して活動すること

e、有望な若くは特殊専門に亘る圖書を蒐集すること

かゝる次第で圖書館の活動範圍は、益々擴大され、常に社會文化の中心を以て任じて居る。只單に貸出圖書館として甘んぜず、有ゆる方面に積極的に働きかけようし、又働きかけて居るのである。

ともあれ課税一片の率は一九一九年發布の現行公共圖書館法、まで殘存して居る。この法規は州參事會に對して、未だ採用されて居ない州内諸地方に對し、かゝる法規を實施せしむべき權限を付與して居る。

その財政上の制約あるにも拘はらず、圖書館運動は大變に進展した。人口稠密な各中心地に於ては、優秀なる圖書館の一つ位は是非欲しいと要求されて居る。農村地方に於てさへも同法令が教區參事會に依つて實施され來つた。もとく

課税に依る資金なのだから、金額が非常に制限されて居るにも拘らず、村落圖書館のあるものは、自發的寄贈の援助を受けて、極めて好結果を得た向も尠くない。又都市圖書館中には書籍及び建築物の設備を整へるために一般社會の助力に頼らねばならぬものもあつた。例へば、ブンドリューカーネギーは多くの土地の圖書館の諸建築の費用を支辨した。彼はその歿前既に圖書館に於るカーネギー王國を創建し、又彼の仕事を續け更に擴大するためトラストを儲へた。彼はこのトラストに總額二百五十萬磅の資金さへも遺しておいた。このトラストの管理人は基金に依る収入を諸圖書館及びその外に國民の福利改善のため使用する事となつて居る。(註—The New International Encyclopedia 2nd Ed. vol XIV 1923.)

若干の州は、農村圖書館に關する實驗的計劃のために選ばれるのである。それは州學務委員會に管理せられて、開設と五ヶ年間の維持費がこのトラストから支辨されるのだ。一九一九年の法令に依れば、州參事會がその實驗の五ヶ年の終りには、その圖書館を引繼ぎ得るやうな仕組になつて居る。かくて州の基金に依つ

て、それ等の圖書館を維持する。この一九一九年の法令は圖書館に關する國家の計劃をして單に希望に終らしめないうで、之を具現せしめるやうに仕向けて呉れるのである。

米國に於ける圖書館税は各州一様ではない。併し一般に一弗について一ミル(我二厘)となつて居る。都市の狀況により、現在最高一錢三厘二毛、中間二厘乃至六厘、最低二毛五糸と云ふところである。州に依つては都市だけでなく、村落に於ても課税し得ることになつて居る。公共圖書館の維持費として、凡そどれ位を適當とするかについては、米國では次のやうなものとされて居るのだ。即ち米國圖書館協會の『圖書館歳入調査委員』によつて承認された額と云ふのがある。一つの市に圖書館を設け、良い館員を任命し、近代公共圖書館として恥しからぬ運用をなすには、その市の住民の有選舉權者一人頭、年一弗を最小限度として支出せしむること、是が最も適度であるとされる。尤も一九二〇年のオンタリオの公共圖書館令では、一人頭五十仙で足りる。最初これでやつて見て、足りない時分には増收

すれば良いと云ふやうな方法を探つた例もある。

米國には一九二四年の調査によると五千冊以上の圖書だけでも三千三十四館三十萬冊以上の圖書館五十一館(我が國では僅かに五館)も存在して居る状態である。更に一九二六年の調査では次のやうな數字が現はれて居る。

公共圖書館總數 五千九百五十四館

經費總額 三千五百三十四萬七千五百五十六弗

總冊數 六千五百五十六萬千七百九十六冊

と云ふまことに物すごい有様である。圖書館國だと威張られても仕方がない。我國での圖書館の現況は何れ詳述するであらうが、現在公共圖書館年經費五百圓以上を數へても僅かに二百十九館と云ふ淋しい状態なのである。

兎も角米國圖書館事業は民衆教育の組織をなして居る事は間違ひない。一般民衆、殊に青年は群集として考へられ、或る標準に依つて測られる。かくて公共圖書館は民衆の一般的要求によつて半世紀間發達し來つた。右に述べたやうに米

國では多數の圖書館を擁して居るもの、その所在地が偏つて居るのも争はれない。八十三館はワシントン及びその北部に集中し、その大部分が市俄古を中心に十二時間に達する距離に集つて居る。又専門的集書は同部類のものが離れて居る。例へば亞米利加初代史文献は、紐育のレノックス文庫、プロビデンスのブラウン文庫、南加州のハンティントン文庫とである。又ダンテ文献、ペトラルカの文献、アイルランド文學、佛蘭西革命文献はコーネル大學に在るやうな例もあれば、エリザベス文學とシエクスピアの研究には、ワシントン、ニューヨーク、ニューヘブン、ケンブリッジを歴訪しなければならぬと云つた工合である。(註—圖書館雜誌第一二四號。)

更に米國議院圖書館長ハーバート・プトナム氏の云ふ處に依ると斯うだ。大學では卒業生が研究心から寄贈するのではなく、卒業の特權として寄贈するので、コレクションは出來易い。その代りその熱誠は賞すべき事ではあるが、圖書館集書の状態は甚だ不均衡なものとなり、或部門のみが増大するの憾がある。大學の圖

書館藏書が偏つて居るのは、こんな處にその謂れがあるのだ。併し卒業生の寄附によつて經常費迄維持し得るに至つた例として、エールとハーバートの兩大學がある。ハーバード大學の例に就ていふと、毎年二十萬弗が卒業生の基金利子から、六萬弗が大學から支出される。

獨逸

獨逸ではまだ圖書館税制を採つて居ない。大戰後、民衆の教育振興は、圖書館の普及に在りと云ふ譯で、異常な努力が拂はれつゝあるのだ。殊にハンブルグ市の公共圖書館は、この國で最も典型的なものと言はれる。そこでこの國でも英米の例に倣つて、圖書館税制を採らうとする動向にある。學校圖書館こそは、まさに獨逸の誇りでなければならぬ。蓋し今を去る二十四年前普魯西の文相フリードリッヒ・アルトフ (Friedrich Altof) の献身的努力の賜なのである。彼は二十五年間普魯西圖書館改善の陣頭に立ち、自らその實際的指導の任に當つた。即ち彼は

- a. 彼の計畫が凡て創造的であつた。
 - b. 彼の指導に依つて多くの圖書館が新設された。
 - c. 圖書館資産の増額を計つた。
 - d. 俸給制度を改善した。
 - e. 目錄法の統一を實行した。
 - f. 圖書の全國的融通貸出を試行した。
- 等々彼の發案と實施は枚擧に遑ない位だ。のみならず全體目錄 (Gesamtkatalog) 及び圖書相互貸出案内所 (Auskunftsbüro der deutschen Bibliotheken) の創設なども彼の案出に依る。彼最後の功績として特記すべきは、一九〇七年六月二十三日文部省布告で、圖書館事項會議 (Beirat für Bibliotheksanlagenheiten) の設立任命である。この會議がそも／＼普魯西に於ける圖書館の系統的組織構成の始めであつた。つまりこの會議は普魯西の國立圖書館長を議長として、外に多くの圖書館員及び教授連よりなつて居る。圖書館側から凡ての希望や請願や報告などが、この會議を

通して提出される。文部省からの命令布告なども、皆この會を通して傳へられる。會は又會自身として自由に圖書館事項に關する種々なる要求暗示を、文部省に提出し得るのである。こんな方法をバーデン國が採つて、一九二三年に同じやうな布告を出した。かくて獨逸國の圖書館事業は、むしろ學術的に大きな發達を見つがある。

圖書館の管理に就て一言しておくのも無用であるまい。圖書館の組織及び管理が周到なる研究に依らねばならぬのは言を俟たぬ。一種獨特なる技術的知識及び經驗が要求される。一九〇五年に圖書館協會が、圖書館員たるべき免許狀を設定したのは、斯かる理由による。即ち圖書館經營の六課目と云ふのは

圖書館史

實用的圖書解題

圖書分類法

圖書目錄作成法

建築及び設備

實用的管理法

等の試験に合格した後、歴史的圖書目錄の或部門、又は圖書館史の或部門に關する研究に於て、創見を示す一論文を示した學生に依つて得られるものである。

倫敦大學では圖書館の實際に關する諸原則の講義が授けられて居るが、この講義は、實際管理の資格を得るのには、更に實際的經驗に依り、補はれねばならぬ。圖書館勤務のため必要なものとして、圖書館の歴史、法規、委員會の仕事、財政、統計、諸報告、館員統制、諸建築物、備品などに關する知識が授けられねばならぬ。

第五章 支那の圖書館現況

支那に於ては圖書館は文運華やかなる清時代に建てられたものと、革命以後中華民國の時になつて創建せられたるものなどが現存するので、相當見るべき状態に在る。今その概況を述べよう。

第一に擧ぐべきは北平國立圖書館である。清末德宗帝位に在り西太后攝政の頃であつた。日清戦役に依つて支那は惨敗したので、列強は清國の積弱無力を看破して、列國は之を壓迫して自國の勢力範圍を定めようとした。即ち佛蘭西は佛領印度支那に近いところに贛山の採掘權を得ると共に、廣州灣を租借した。獨逸も之に倣つて膠州灣を借りた。次いで露西亞は旅順大連を、英吉利は威海衛をと云ふ風に、恰かも支那全土は分割されさうな勢になつた。かゝる險惡な形勢に顧みて清國の上下には、漸く國政改革の運動が起つた。こんな氣運の漲つて居る折

桐、張三洞は京師圖書館を創てようと志し、之を奏請した。繆筱山や徐梧生などが大いに共鳴して、之を支持した。南學典籍を收め、十刹海廣寺を以てその樓となした。それが即ち今の北平國立圖書館である。創立宣統二年である。現在に至るも活潑なる動きを示し、各方面の人材を網羅し、東洋第一と稱して居る。總務部、採訪部、編纂部、金石部などの八部に分れ、組織整然たるものがある。既刊の出版圖書さへ數十種に上る有様である。その藏書は

普通圖書 三十萬冊

善本 三千八百部

文津閣四庫全書 三萬六千三百冊

敦煌寫經 八千六百五十餘卷

金石拓本、地圖等 數萬

この外に梁任公藏書や、西藏文大藏經などを藏して居る。

この北平國立圖書館の分館に、故宮博物院圖書館がある。故宮壽安宮の内にあ

つて、後院を書庫となし、外院を公室閱覽室として居る。創立は民國十四年である。經常費は故宮博物院から支辨される事となつて居る。分館ではあるが、藏書數は二十八萬三千七百十六冊に上る。この内に滿文の書が含まれて居る。

以上は公共圖書館に屬するものであるが、大學圖書館としては北平大學圖書館がある。もともと京師大學堂に藏書樓があつた。これが抑も々々この圖書館の始源である。現在は松公府にあるが、目下は新館建築中である。こゝは購入費だけでも毎月九千元を計上して居て、藏書數は十七萬六千九百八十八冊となつて居る。こゝで特記すべきは日刊新聞を發行して居る事である。

北平に於ける圖書館はもとより、なかなか是に止らない。壯嚴を以て聞えたものに北京圖書館がある。民國十三年に民國政府は中華教育文化基金を得てから、董事會を組織した。その第一回の會議に圖書館創立の議が提案された。董事會

は十五年に解散されたけれ共、間もなく新委員を定め、北平城外なる北海の西南方に地をトした。北海とは城外の湖の名である。百萬元を以て建築にかゝつた。宮殿の様式で壯麗を極めたものだ。安那氏の設計、北京長老、丁恩氏の監督にかゝる。蔵書六萬五千を算し、この外滿蒙回蔵の書を蔵して居る。この館の事業として

一、中國圖書大辭典の編纂

一、新版書の調査

一、道咸同光四朝外交始末の編纂

など記しておくべきであらう。京師圖書館の分院として、北京第一普通圖書館がある。民國二年の設立である。十七年に北京特別教育局の管理に移つて、宣武門内頭髮胡同に建てられて居る。五萬の蔵書を有するのである。

北平城外に清華大學、燕京大學などがあるが、各々その附屬圖書館を逸してはな

らぬ。清華大學は西部清華園に在る。この大學の圖書館に就て特記すべきは、その行届いた整備整頓である。學生をして自由に書庫に入れしめるのは、この圖書館のみである。蔵書數は十一萬六千八百八十九冊に上る。經常二萬數千元許りでなく、購入費五萬七千四百三十六元と云はれる。

北平城外に北海なる湖水のある事は、さきに書いた。この北海の中に孤島がある。これを海甸と稱ぶ。上野不忍池の辨天堂のある島見たやうなの大きなのであらう。燕京大學は民國八年からこの海甸に在る。その附屬圖書館も亦大學と共に海甸に移つて居る。經常費二萬二千五百七十七元、購入費六萬四千元と云ふ處から見れば、清華大學圖書館程のものではないらしい。従つて蔵書も四萬三千八百八十一冊にすぎない。尙北平大學藝術學院圖書館なるものがあるが、蔵書二千三百冊位ひで云ふに足らない。

民國十四年に建てられた輔仁大學圖書館がある。新校舎の樓上を書庫として

樓下を閲覧室として居る。經常費五千餘元、購入費二萬元、藏書四萬五千冊を算する。出版物に

輔仁學誌、羅輯學、名理探、明季之歐美化術及羅馬字注音、輔仁英文學報、中西交通史料匯篇
等がある。

地方の圖書館で顯はれたるものとしては河北省立第一圖書館が數へられよう。創立されたのは清末光緒三十四年であるが、革命後民國十三年の交、郭松令のため一時荒廢の已むなきに至つた。後に嚴範孫、嚴侗の兩氏に依つて辛うじて維持する事が出來た。天津中山公園内に在る。従つて經常毎月四百八十元、藏書數四萬を出でないやうな次第で、未だ必ずしも盛況とは云はれない。山東省立圖書館に至つては、やゝ之と異り、藏書十七萬冊を有して居る。金石保存所をも有し、濟南太明湖畔にある。清末宣統元年に羅須循などの創設にかゝつたものである。珍書

として山東郷賢の遺書を蒐集したものや、李南澗の藏書、孔氏微波榭の藏書などを收めて居る事で知られて居る。

第六章 日本の圖書館現況

第一節 公共圖書館

明治時代に入つて學校教育は政府の保護と奨勵とに依つて著しい發達を遂げた。就學兒童の如きも、世界第一の高率を示して居るのである。然るに圖書館事業に至つては、甚だ閑却されて、公私共に兎角他の急進なる發展の犠牲となつて居る有様である。明治五年に官立圖書館東京書籍館後の帝國圖書館が出来たのみであつて、政府はこの方面に對して何等特別の努力を拂つて居ない。明治十七年に幕府の『紅葉山文庫』が『内閣文庫』と改稱された。明治三十二年に及んで始めて圖書館令が發布された。とは云へ設立の上に何等強制力がないのである。建てられる所には、建てゝも良いと云つた程のもので極めて微温的なものである。

最近に至つて之を改め各縣市町村には是非圖書館を設けよと、設立の義務を負はせるやうな案が作成中であるとの事だ。

官立以外の府縣の方では、明治三十一年に京都府立圖書館が設立され、同三十六年に大阪府立圖書館が建てられた。他の大縣でも漸次設立の機運に向つた。四十三縣中縣立圖書館を有つて居るもの二十九縣であつて、十四縣にはまだ縣立圖書館を有つて居ないと云ふ現狀である。三府中でも、東京府にまだ府立の圖書館がない有様である。縣立かくの如しであるから、市立圖書館に至つては更におくれて居る。東京市立圖書館が明治三十九年に設立されて、次第に市立圖書館の數を増し、現在二十館となつて居る。神戸市立圖書館が明治四十四年、横濱大阪の兩市は大正十年の設立である。名古屋市に於ては、漸く大正十二年に及んで圖書館を有するに至つた。昭和五年現在調査に依ると市の數が百九市を數へる事が出来るのに、圖書館を有する市は僅かに五十一を算するにすぎない。館の總數七十五館を數ふるのみ。

我國に於ける圖書館事業を豫算面の上から見ると、教育費は全豫算中重要な地位を占めて居るが、圖書館費の如きは殆ど云ふに足りない。即政府豫算昭和二年度に於て、

全豫算總額

十七億五千八百萬圓

教育費豫算

一億三千九百十五萬圓

となつて居る。之を同年度

地方教育費豫算

四億五千九百七十三萬圓

を合算すれば大した數字となる。然るに圖書館費になると、總計二百十萬三千圓の少額にすぎない。是を歐米の圖書館のそれに比べるならば米國の一小市クリーブランド市の公共圖書館の經常費すらもが一九二八年に於て、邦貨に換算すれば三百五十六萬八千四百八十圓となつて居る。我が全額より百五十萬圓許りも多い。ロースアンゼルの市の公共圖書館でさへ二百四十一萬圓餘と云ふので、之にも及ばない狀態である。我國唯一の國立圖書館である帝國圖書館でさへ、一年の

經費僅々十三萬圓を出でない有様である。同じ國立である『大英博物館文庫』では二百十五萬六千圓と云はれ、米國々立圖書館なる『議院圖書館』が二百五十萬圓と云ふ。是等に比較すると、誠に同日の談ではないのである。之を府縣に就て見るに大阪府が最高である。即ち昭和五年度に於て、大阪府では

教育費總額

六百九十六萬圓餘

の中から

圖書館費

六萬八千六百圓餘

が支出されて居る。その他の府縣圖書館の支出は

京都府

三萬五千五百圓

秋田縣

三萬二千圓

長野縣

二萬五千圓

福岡縣

二萬七千圓

等を除いたら、あとは殆んど云ふべきものがない。市立について云へば昭和三年度では

教育費總額

一億六百五十萬圓

の中から圖書館費としては

九十五萬七千圓

の支出である。尙昭和五年の各市の圖書館費支出概況を見るに

東京市

二十二萬四千圓

名古屋市

五萬七千六百圓

大阪市

四萬五千圓

神戸市

四萬千圓

など多い方となつて居る。

植民地方面では臺灣總督府圖書館の四萬七千圓、京城府立圖書館の三萬圓、關東廳圖書館の二萬三千圓などが主なるものであらう。私立としては鐵道圖書館の

四萬二千圓、滿鐵圖書館の二十五萬四千圓の如きは特記すべきであらうか。
序でに私立圖書館に於る豫算關係を見れば

大橋圖書館

六萬八千圓

藤山工業圖書館

一萬四千圓

廣島縣淺野圖書館

一萬八千圓

香川縣鎌田共濟會圖書館

一萬餘圓

等であつて他は極めて少額である。

かやうに、之に依つて見るも私立圖書館中最大なるものは先づ大橋圖書館に指を屈しねばならぬ。その他の大小公私の圖書館は、我國でも三千九百を算する事が出来る。然るにこの内に於て、藏書三千冊未滿、又は閱覽人五千人未滿の公共圖書館を除いたら、七百四十三館が現存する、との文部省の調査である(昭和五年)。これらの圖書館事業の促進に就ては、當時南葵文庫主で日本圖書館協會の總裁であつた、徳川頼倫侯の指導獎勵の功大なるものがあつたと云はれて居る。

特殊な圖書館としては、さきに一寸擧げておいた滿鐵經營の大連を中心とする大連圖書館の外、奉天、撫順等、滿鐵沿線に立派な圖書館を持つて居る。この外三菱、日本銀行の調査部の圖書室、新聞社の調査圖書室を始めとし、『藤山工業圖書館』、『東京商工會議所圖書館』、『東京市政調査會』、『東亞經濟調査局』、『大原社會問題研究所』等各方面の特殊圖書館がある。又前田、岩崎家の如き富豪やその外學者の文庫乃至圖書館には、貴重な資料が珍藏されて居る。モリソン文庫を中心にした『東洋文庫』には、入手し難い資料に富んで居る。

政府の各省にも各々相當な圖書館を持つて居る。前記の『内閣文庫』を始め、大藏省、内務省、外務省、特許局、司法省等皆夫々圖書館を有する。印刷局の圖書室は日本各官廳の出版物の目錄を發行する關係上、各官廳の刊行物を集めて居る。特に議院圖書館では、關係圖書を豊富に蒐めて居る。

今我國に於ける公共圖書館の概況を表示すれば左の通りである。

全國主要公共圖書館一覽表

館名	創立年月	經常費總額 (昭和五年度)	藏書總數 (昭和五年三 月末現在)		閱覽人員總數 (昭和四年度中)
			五百圓以上	七萬圓以上	
帝國圖書館	明 5.4	129,904	699,492	398,913	
東京市立日比谷圖書館	明 39.11	223,955	132,923	315,441	
東京市立圖書館 (19館ヲ含ム)	明 42.1		176,664	1485,915	
財團大橋圖書館	明 35.6	68,025	86,781	273,287	
京都府立京都圖書館	明 31.4	25,489	118,551	132,766	
大阪府立圖書館	明 36.4	68,676	218,035	394,081	
大阪市立清水谷圖書館	大 10.10	45,200	9,711	95,018	
大阪市立圖書館 (5館ヲ含ム)	大 10.6		32,460	400,202	

全國圖書館統計表

館別	館申請書中經常費ノ標準			計
	五百圓以上	五千圓以上	二萬圓以上	
官立圖書館				1
道府縣立圖書館	8	19	8	35
市立圖書館	16	21	4	42
町村市立圖書館	94	12	2	109
在臺灣圖書館		2	1	3
在朝鮮圖書館	1	2	2	5
在滿洲圖書館	5	16	2	24
計	124	72	19	219

尙滿洲に於る著聞するものとして三館を挙げ度い。即ち大連圖書館、國立奉天圖書館及び滿鐵奉天圖書館が夫れである。その概要を語れば次の如し。

大連圖書館では前松崎館長の蒐集と舊滿鐵調査課蒐集の北支滿蒙の地誌を主とせる圖書が根幹をなして居る。その他伊太利人ロスの蒐集と大谷文庫の書籍拓本類がある。本館の最も誇とする善本書庫には海源閣藏書がある。その他稿本萬氏家集、耶蘇會文書類等、和漢書合して

藏書總數

一六〇、〇〇〇冊

を有して居る。

次に國立奉天圖書館

創立は大同元年六月。書庫は尙竣成をみない。股本、滿文、檔案、善本、普通の五部に分かれたれ、東北大學、萃升書院、馮庸大學、張學良の舊藏書等合して

藏書總數

一〇〇、〇〇〇餘冊

本館の附屬に文淵閣四庫全書館あり。六間三層よりなり、三階は子部集部、二階

は史部、一階は經部、及び古今圖書集成、簡明目録をおいてある。

滿鐵奉天圖書館

大連に比し概して洋書を多く集め、同時に滿蒙地誌の蒐集に意を用ひてある。

熱河文獻展覽會陳列目録、奉天圖書館叢書、及び書香と題する小冊子が刊行されてある。

旅順庫籍整理處

旅順庫籍整理の檔案目録は大庫史料として刊行さる。

第二節 學校圖書館

我國に於る學校圖書館に就て、先づ歴史的に之を云へば、東京帝國大學附屬圖書館が明治十六年に設立されたのを、その最初とする。早稻田大學圖書館も同年に設立された。後二年を経て、第一高等學校圖書館が建てられた。明治二十年に東京商科大學の前身高等商業學校の圖書館、同三十二年に京都帝國大學附屬圖書館、

同四十四年には東北帝國大學附屬圖書館と云ふ風に夫々設立された。その外明治二十年に同志社大學、同三十年に明治大學、同四十五年に慶應大學圖書館が建てられた。高野山大學圖書館や京都の龍谷大學圖書館等は、何れも寺院文庫の延長であつて、貴重書も多い。

昭和二年の調査に依ると、我國高等諸學校中、二百八十五校だけが、圖書館をもつて居る。中等學校にも大抵圖書室を有するけれども、生徒の圖書室乃至圖書館としての設備をもつて居るところは極めて僅少である。小學校には圖書室や或は學校文庫を有つて居るのが相當數を算しよう。これはその性質上兒童圖書館に類して居る。又巡回文庫の停留所を兼ねたものがある。當局もその方針を奨励して居る。又東京市の如く、小學校内に公衆圖書館を設置して、一般成年者の閱覽と兒童室とを兼ね備へるものも、次第に増加しつゝある有様である。

京都帝大圖書館

七十五萬冊

東京帝大圖書館

五十五萬冊

早稻田大學圖書館

二十九萬冊

などが多い方と云はねばならぬ。大方は一萬冊乃至二萬冊を以て普通とする。圖書費としては帝大の二、三十萬圓處を最高となす。少いものになれば八百圓程度のもも珍しくない。高等諸學校の圖書館で最も普通なのは六千圓乃至八千圓である。かゝる程度のもものが全體の約三割を占めて居る。之を歐米の夫れに較べるならば實に貧弱極まるものと云はねばならぬ。前にも記した處であるがケンブリッジ大學圖書館で藏書數百二十萬冊で、經費八萬二千四百圓となつて居る。巴里文理科大學に於ては、藏書約八十三萬冊、伯林大學が約八十萬冊を數へると共に經費十四萬七千五百馬克である。米國のハーバード大學圖書館に於る藏書約二百三十三萬冊、エール大學圖書館では百四十萬冊、基金二百九萬六千八百九十圓だと云はれる。高等並びに大學教育に於て圖書館が不可欠の要素たる事は既に述べた。それと共に歐米に於る凡ての教育者、學者に依つて確證されたこと

ころである。然るにわが國では學校圖書館も一般圖書館と共に、氣焰甚だ揚がらないのは遺憾である。

第三節 日本大學圖書館

日本大學圖書館は日本大學それ自體の進展と離してはもとより考へられない。従つて今こゝに同大學の異常なる展開の跡と關聯せしめて、日本大學圖書館の發達の歩みを顧みることとしよう。元來日本大學の創設その者が日本の名を冠するだけに、深い歴史的因縁を有するのである。明治維新に依つて徳川幕府の鎖國政策は廢せられて、開國進取の積極政策となつた。この積極政策は果ては歐化主義、西洋文物萬能思想となるのであつた。これは併し政府當路に於る意識的方針でもあつた。蓋し明治初頭に於る政府の外交問題に於て、最大の仕事としては關稅權の恢復、治外法權の撤廢であつた。この問題の解決のため幾度びか内閣は代つた。二十年もの努力をもつて始めて解決する事が出來たやうな有様だつた。

つまりこんな屈辱的條約を改正して國權を發揚するには、必然我國の文物制度から國民の生活狀態に至る迄、悉く之を歐化し、西歐諸國と友邦たり得る實力を示しておかねばならぬ、と云ふ必要に出でて居た。

例へば日比谷の鹿鳴館には内外の紳士淑女を集めて、夜毎に宴を張り、舞踏會を開いて只管外人の歡心を得るに焦慮した。二十年の四月伊藤總理大臣の官邸に開かれた假裝舞踏會の如きは、斯ゝる催しの最大なるものであつた。斯の如き狂態亂舞の西洋心醉に對して、俄然保守反動の思想が昂つた。國粹保存論の勃興を見るに至つた。もとより國粹保存論は國民自覺の現はれである。盲目的に歐米文化を摸倣せんとする歐化主義に反抗の態度を執るに至つたのは、必然と云はねばならぬ。明治九年の交佐田介石の『ランブ亡國論』の如きは極端なものとしても、明治十九年西村茂樹は大學の講堂に於て『日本道德論』の下に、國粹論のため萬丈の氣を吐いた。この前後鳥尾小彌太は『王法論』や『保守新論』を著して、政治上に保守主義を唱へた。又三宅雄次郎、井上圓了、杉浦重剛、島地默雷等は政

教社を組織し、『日本人』誌を發行し、歐米撲倣を痛撃した。更に川合清丸は大道社に據つて日本固有の宗教を高調した。谷干城は勝海舟、副島種臣などと共に時弊を痛論するのであつた。

政府の歐化政策はかゝる國粹保存論の活潑なる運動にいたく氣勢を削がれた。従前政府の壓迫から四方離散の運命に泣いて居た舊自由、改進黨の志士等は、再び帝都に集合して政府攻撃の砲火を開いた。かく云へばいかにも政府要路者は軟弱外交にのみ終止して、歐化に専らに、外人の歡心を買ふを是事としたかのやうに思はれる。臺閣に一人の國家觀念あるものなく、國民的自覺あるものなきやうに思はれる。併し歐化も畢竟はむしろ一時の方便に過ぎなかつた。胸中只國權の發揚伸張に急なるのみであつたらう。我等はそのよき現はれを、時の司法大臣山田顯義伯に見るのである。伯は歐米心酔の潮流到る處に横溢する様を深く憂へた。其の憂慮の餘りが、皇典研究所の創設となつて現はれた。併し伯は之を以て満足しない。歐米法律の研究のみの旺んなるを慨き、茲に純然たる日本的法學

を教授すべき必要を痛感した。その結果建てられたのが、日本法律學校であつた。之れなん日本大學の前身なのである。創設の時も明治二十二年と云ふ、帝國憲法の發布の年であつた。國粹論漸く興り、國民自覺の潮旺んなる時に日本主義日本精神を高らかに標榜してこの大學が立つたのだ。國家的自覺のまことによき記念の塔と云はねばならぬ。日本大學の創設はかくて、單なる一學團の出現ではない。國民文化の歴史の上に、深い意義を認めざるを得ない次第である。

山田伯に依つて自覺された日本主義は、その相次ぐ後繼者により益々明徴された。諸々の最高學府中最もよくこの精神を具現するものとせられるのは故なきに非ずである。その最初の校長は金子堅太郎伯であつた。後松岡康毅、平沼騏一郎の兩男を経て、昭和八年山岡萬之助博士を總長に迎へ今日に及んで居る。この間もとより迂餘曲折、幾多多難の時代を経過しなければならなかつた。校舎としても獨立のところを有たず、僅かに皇典研究所や帝國教育會の一隅を借りるにすぎなかつた。神田三崎町に初めて校舎を新築して移轉するを得たのが、明治二十

九年六月であつた。三十四年増築を行ひ高等師範部を置いた。これから漸く發展時代に入る。即ち三十六年、高等豫備校高等専攻科を設けた。この年八月日本大學と改稱。翌三十七年の在學生總數二千に餘る。四十四年政治科が新設された。大正二年現總長山岡博士、學監として就任以來、進展の幕は愈々切つて落された。三年に大學豫科が出來、六年には宗教科が設けられた。歐洲の大學はその端緒を宗教に發するので、凡ゆる大學に神學部が他の諸學科の首位に在る。我國は國情を異にするので歐洲諸大學の所謂神學部は置かれなかつても、かくては大學より全く宗教性を缺く事となる。こゝに見る處あつて宗教科の創設となつて現はれた。次いで大正九年に社會科が出來、十年には美學科が新設された。即ち藝術科の前身である。前者は混亂せる國民思想や社會問題に對し光明を與へんとするものであり、後者はもとより藝術教育を標榜するもの、何れも我が大學教育に於ては、絶えて他に類例を見得ざるところである。その前後に大正九年に新大學令に依る大學に昇格して、大學に法文學部、商學部が設けられ、大學豫科が併置された。

同じ年に高等工學校の新設を見ると共に、駿河臺校舎に齒科が現はれた。

かく新設に次ぐに新設を以てし、發展膨張に漸く多忙ならんとする頃しも、大正十二年九月の大震災である。三崎町校舎も駿河臺校舎も、新築中の本所なる普通部校舎も悉く灰燼に歸した。校舎の焼失も去る事ながら、惜しむても猶あまりあるは、圖書の焼失である。日本大學圖書館は従前三崎町校舎の新築と共に、その一隅の教室を以て之に充てられて居た。山岡博士滯歐留學の記念として、購ひ得られしビンディング教授の文庫があつた。その藏書數二萬に近かつた。之を容るるに處なかつたために、三崎町校舎の土藏に、荷造りの儘所藏されて居た。然るに大震災のため之も亦烏有に歸すると云ふ運命に陥つた。ビンディング文庫來着と共に、漸く形體を整へんとした大學圖書館は、あらゆる企圖が之に依つて全く畫餅に歸せしめられたのは、遺憾の極みである。

震災はかくて有形なるものを悉く失ふ迄の打撃を與へた。併し無形の精神迄も左右する事は出來なかつた。その餘焰と灰燼の中から第二の誕生がなされた。

十月一日から方々の校舎を借りて授業が開始された。即ち復興の第一歩である。十一月七日には三崎町も駿河臺も共に假校舎が成つた。愈々凡ての方面に亘つて本建築の竣成を見たのは昭和二年六月であつた。この間、毎に新なる施設が加えられた。就中駿河臺校舎に醫學科が新設されると共に、附屬病院をも設けられたのは特記しておかねばならぬ。更に翌三年には工學部が成つて土木、建築、機械、電氣の諸科が置かれた。次で専門部工科が設置されるやうな次第で、精神科學の部面は從來殆んど間然する處がなかつたのに、かくして今又自然科學の部面も略ぼ凡てを網羅する事となつた。農學部を残すのみで綜合大學の體系は殆んど形を成す事が出来るに至つた。それ許りでなく大阪には専門學校及中學校の建設を見るに至り、阿佐谷に第二普通部、赤坂に第三普通部、横濱市に第四普通部と云ふ風に、増設新設擧げて數ふべからざる有様である。

かゝる間に處して圖書館はその營みを休止すべくもあらねば、大正十四年六月バラックの假校舎に百冊前後の藏書を以て開館された。世界最大を誇るハーバ

ード大學圖書館も、その創立當時一、六三八年には僅かに三百三十冊の藏書しかなく、百八十萬卷の藏書を以て世界第二位を稱するエール大學圖書館も創立當初はパークレイ司教の寄贈になりし、一千卷より始まつた。等々の事を願みれば悲しむには足りない。かくて日本大學圖書館は林泰輔博士文庫六千卷を譲受ける事が出来て、之を三崎町校舎に收藏する處がなく、本所普通部に容れられた。駿河臺校舎には洋書のみを藏する事となつて、三箇所に分藏するの已むなき状態に在つた。漸く三崎町の本校舎に收藏統一されたのが大正十五年五月である。然るに昭和三年に至つて宮内省より有難くも、宸翰集が下賜された事は特筆すべきであらう。蓋し本圖書館の光輝たるを失はない。翌四年八月には江戸文學研究家として名あつた武笠文庫を收める事が出来、この數六千卷である。なかには蜀山人自筆未刊本『松櫻私語』や未刊寫本『宇津保物語』などを見出す事が出来やう。

この外、本圖書館に

新古今和歌集斷簡

五葉

築島文覺

刊本各一冊

平家物語(金本本)

刊本一冊

都文山日記

寫本一冊

蝦夷語集

寫本一冊

など貴重圖書としてやゝ慢り得るものではあるまいか。しかし現在の藏書數五萬八千冊閱覽人員二〇、二六七人と云ふのは、決して自負し得るものではない。綜合大學の體裁既に成つた今日、何時迄もかくてはならぬと云ふのが、大學首腦者の所懐であつた。それも震災後約十年餘の歲月は、夜に日を續いで進展擴大に寧日なかつたので無理はなかつた。だが、愈々豫ねての待望實現の日は來た。即ち昭和八年七月山岡博士の總長就任其の第一歩の課題は

一、醫學科校舍及附屬病院の移轉建設

二、齒科附屬病院の新築

三、圖書館の建設

であつた。そこで十年五月には醫學科附屬病院が、九月には齒科附屬病院が、夫々竣工した。圖書館もその工全く成つたのが同年十二月であつた。是で多年の懸案は見事に完成された譯である。

新總長に於ては、併し只圖書館建築の竣成のみを以て完しとはしない。博士の仕事はむしろ是からである。プリンストン大學のギルマン總長は、大學に於ける圖書館の位置をば、大學の心臟だと云つたと云ふので有名であるが、ところが山岡總長に依れば只に心臟ではない。圖書館は大學の祭壇なのである。大學精神の以て生れる處であり、眞理の忠僕たる學徒が、眞理に對して額く處なのである。従つて新圖書館の施設が悉くかゝる意圖のもとに考へられて居る。他の大學圖書館とは、その趣きを異にした特色を有するのは云ふ迄もない。それ許りでなく大學の貴き祭壇なるが故に、總長自ら之を管掌する。日本大學圖書館は大學それ自體が、過去十餘年の間に奇蹟的の躍進を續けて來た潑刺さより推せば、來るべき日

に於る旺んなる動向は、刮目に價するに相違ない。新圖書館の結構は所謂廣間式と近時流行の倉庫式とを兼ね、大學附屬の圖書館としての利用に重點を置いて居る。建物自體の華美の如きは之を考の外に置いてある。

参考文献

續日本記	卷三六	渡邊德太郎
芸亭と石上宅嗣	圖書館雜誌第三六號	
本朝文粹	卷一二	菅原恒賢
書齋江		
管公御傳記		
吾妻鏡	卷一九 承久二年正月	近藤守重
金澤文庫考		
足利學校沿革誌		
淺草文庫の今昔	書齋第一〇號	竹原蕭々
青柳館文庫並に青柳文藏傳(圖書館雜誌第一三號)		大槻文彦
天真院了翁禪師記念錄		仁峯

参考文献

參考文獻

了翁禪師

大日本歷史(上下二卷)

日本文化史(全十二卷)

西洋史講話(上下二卷)

中華圖書館協會叢書

國學論文索引・蔡元培著

中國圖書館事業的史的研究・馬宗榮

圖書館組織及管理・馬宗榮

全國圖書館計劃書・李小綠

中國現代圖書館概況・金敏甫

公共圖書館之組織・李小綠

圖書館事業之發展・金敏甫

圖書館學之心得・杜定友

一六六

嵩吉靖

有賀長雄

大鐙閣發行

瀨川秀雄

浙江圖書館月刊一卷九期

圖書館學季刊二卷二號

中山大學圖書館週刊一卷至四號

中山大學圖書館週刊一卷一號

科學的圖書館建築法・杜定友

中國古人三圖書館・鍾顯謨

中國圖書館小史

中國圖書館教育述略

北平學術機關指南

北平圖書館協會出版
中華民國二十二年二月

寫本時代と板本時代とに於ける支那書籍の存亡聚散(史學雜誌十三)

四庫全書と文淵閣に就て(史學雜誌十三)

書林清話(全五冊)

圖書館雜誌(昭和五年度)自一三三號至一三三號

Richardson :- Beginning of Libraries.

Richardson :- Some Old Egyptian Libraries.

Richardson :- Biblical Libraries.

民鐸雜誌六卷一號

廣州大學圖書館季刊一卷

史學雜誌十三

市村瓊次郎

市村瓊次郎

葉德輝

參考文獻

- Postwick :- American Public Libraries.
E. Edwards :- Memoir Libraries 2 vol. 1895.
Bohatta-Holzmann :- Addressbook of Libraries in Austraria-Hungary 1900.
Lowe. T. A. : Public Library Administration (Chicago, 1908), 53
A. L. A. : Library extension (Chicago, 1926) appendix
Graesel, A : Handbuch der Bibliotheklehre (Leipz. 1902—431)
Jahrbuch der deut chen Bibliotheken (Leipz. 1915—28)
Meyers Konversations Lexikon, Zweiter Band neuer Abdruck.
Leipzig u. Wien Bibliographisches Institut, 1906.
Horders Konversations Lexikon. Dritte Auflage Ersten Band, 1921.
The New international Encyclopaedia, 2^o. edition, Volume XIV. 1923.

第三篇 圖書館の將來

第二篇 圖書館の現況

第一章 圖書館の新動向

既に記した處に依つて知られるやうに、圖書館は只圖書集藏の處ではない。その利用と云ふ點にその本質が存するのだ。時代の進展と共にその利用範圍の擴大が行はれつゝある。殊に大學圖書館の如きかゝる趨勢が著しいものがある。今日の大學圖書館は當に學生の教場であり、研究室であり、慰安所でもある。教授も、講師も、學生も、卒業生も、皆均しくこの中心點に集うて、この精神的殿堂としての祭壇から流れ出される輪血に依つて、修學を大成し、研究を完成せしむるのである。かくて學生々活の大部分は、圖書館内で過されると云ふのが、輓近の現象である。それだから、現在及び將來の大學圖書館に於ては、一時に多數の者を容るべき大閱覽室がなくてはならぬ。教授講師のために指定さるべき教員閱覽室は無論のこと、特別教師のための指定閱覽室や、貴重書又は秘密文献を見るべき特別閱覽室等

を始め、新聞雜誌閱覽室、喫煙室、休憩室、食堂、喫茶室などの設備がなければならぬ。夏暑からず、冬寒からぬために、冷房装置や暖房設備を施すべきであらう。

そこで勢ひその施設は大きくなり、複雑となるであらう。従つて圖書の整理、貴重書の保存、目錄カードの作製など、圖書館事務は多岐複雑ならざるを得ない。圖書閱覽者の利便から云つても、又整理から云つても『著者名カード』以外に、圖書の内容を示すべき『件名カード』乃至は『分類カード』が必要である。そのために目錄作成の技術が起つて来る。書庫と貸出しとの連絡のためには、書庫内排列上の技術が生れる。圖書を運搬すべき自働エレベーターや、求書傳票を書庫内に送るべき真空管などが發明された。

漸くにしてカード目錄で自分の思ふ本を見出して知り得た番號をば、請求箋に記して閱覽臺に差出す。十分二十分空しく待てど、なか／＼に目的の本が渡されない。やつと名を呼出されたかと思ふと、貸出中とにべもない返事である。遂に一日かゝつても本にはめぐり合はないと云ふのが、我國の著名な圖書館でも珍し

くない風景である。折角閱覽のため出かけた者も圖書館の利用どころか、むしろ反感を以て引下がるのが關の山である。そこで米國などでは貸出事務のスピード化が圖かられて居る。コロムビア大學圖書館の如きは、二十年前既に若し四分以上を要したる折には、注意され度いと揭示してある位だ。最近エール大學ではタイムスタンプを押捺して、三分以内で完了する事を期して居る。(註—毛利宮彦氏『各國圖書館事業の新施設』)

圖書を失はないために、又失はれたる圖書補充のため、何うしても圖書の受入を嚴にし、受入記録簿を作り、受入の目錄を明かにしなくてはならぬ。それと共に圖書の評価々格を明かにして置かねばならない。圖書に番號隠し判を施して、所屬圖書館第何號と附印するは勿論である。館外帶出にはその圖書に相當する保證金、又は紛失の場合に取るべき賠償方法をも適宜にすべきであらう。雨具や外套や帽子等を閱覽室に持込まないやうに、自在錠付洋傘立や外套掛などを用ゐるやうになつたのも、近代圖書館の一進歩である。其他閱覽室の照明を明るくし、各人各

個に點照自在の書見燈を机上に取附けたり、硝子板の床又は屋根を用ゐて、書庫乃至閱覽室を明くし、四肢の階段を書庫内に架けて、圖書の出入を迅速ならしめて居るのも、近代圖書館の現象と見ねばなるまい。

大學圖書館にはまた記念室及陳列室を設けて、學者文豪の寫眞や肖像を飾り、歴代總長、部長、學長、其他著名の校友の肖像、印璽、卒業證書、願書と云つたやうな凡そ大學の歴史を語る程の文献や、記念品を陳列し、又之を保管するものが多い。又年に一回乃至二回大學圖書館を一般に公開し、大衆の攻學心を刺戟するのも、重要な課題であらう。或は好奇心を満すやうな古書、珍書、骨董品、論文等を陳列して社會と大學の親密を圖るべきであらう。大學に對する民衆の理解と認識とを深める事は、所謂ユニバシティ・エキステンションでもあり、他面社會文化の向上をも意味するものであらう。

米國議院圖書館長ハーバート・ブトナム氏が、一九二九年羅馬に於る第十一回國際圖書館大會で、米國圖書館事業に就いて論じた。その改善私案として次のやう

な事を云つて居る。之は獨り大學圖書館許りでなく、一般公共圖書館に在つても圖書館の能率を高める所以だと思はれる。又限られた經費を、最も有意味に用ゐる事にもならうと云ふものである。と云ふのは即ち、

一、國內に十ばかりの普通の研究ならば、充分に組織的な非常に有力なコレクションを設けて、その地方の研究の中樞とならしめる計畫をなす。

二、この中樞の手を経て外の館からの貸出、及びこの館からの貸出を圖書館間では自由となすこと。

三、非常に専門化した資料はなるべく少數の所に集めること。その理由は無用の複本が生じ、一ヶ所に専門的に充分に資料が集まるのを妨げるからである。資料はどこか一ヶ所に集めて、圖書館相互の貸出を圖り、有効に資料を用ふること。

四、三十八の學會圖書館の經費は年二百五十萬弗に上つてゐる。これを有効に使用ふには、圖書館相互貸出によつて得られるやうな不用の複本を集めることをさげ、特殊集書を作ることを中心掛、集書を大ならしめてその地方の専門的研究の

中心たるやうにすること。

五、聲明書を圖書館より出して、研究者には如何なる資料を、如何なる場所へも貸出すこととし、聲明書は各地研究者及び研究者の手近の圖書館へ發送し、通信によつても用を足せることとする。(註「圖書館雜誌」第一二四號參照)

と云ふのである。悉く彼の意見の通りになるものでもないであらうが、従前の圖書館に於ける難點を指摘すると共に、將來の圖書館の維持經營に對して、ある方向を示したものと考へられるであらう。

以上は主として大學圖書館に就て、現在及び將來に亘る新しい動きとも見るべきものを述べた。今少しく米國などに於ける公共圖書館の新現象に觸れておき度い。圖書館の起源が貯藏に出發し、之が利用性を有つに及んで、その本質使命を發揮したのであつた。その利用とは参考の用に供せられるのである。つまり圖書館は大學圖書館であれ、はた公共圖書館であれ、參考圖書館としてその機能を果して來たし、又果して居るのである。然るに従來一部の動きを見るに、かやうに只

單に参考となるに止らず、進んで指導の任にまで當らうと云ふのが現はれて來た。指導司書 (teacher-librarian) と云つて米國クリブランドの圖書館に於ける試みがそれである。勿論圖書館には夥しい集書があるのだが、之等の書籍を適宜に利用し得のには、大學教授並みの知識と教養とを要する。それで大衆をして遺憾なく参考の用に供せしむるため、夫々専門の司書が居て、讀者の要求のまに、圖書館その他の資料を提供して與へるのである。かゝる仕事に携はる人々を指導司書と稱はれて居る。

參考圖書の任務は主として受身の立場である。どうしても靜的であり、消極的であるものを、更に竿頭一步を進めた形が、この指導司書の試みであらう。これでは單なる參考圖書館が、積極的の形態となつた譯である。かくして始めて圖書館の街頭進出が徹底する事になる。歐米の圖書館に於ては、かゝる街頭進出のためには、並々ならぬ苦心と努力が拂はれて居る。壯麗宏大な圖書館建築は、つまり大衆の讀書研究を主とする參考用圖書館である。それらは附屬した分館を市内に

散在せしめて居る。この分館は圖書の貸出を本領とする貸出圖書館と云ふのが、その建前である。圖書の配給を眼目として居るから一般大衆との接觸は、之に依つて愈々密ならざるを得ない。かくして圖書館の利用は益々活潑の度を加へるのである。

彼等は猶之のみを以て満足しない。全市に散在する幾十の分館は、停本所 (Depot-station) や配本所 (delivir-station) を有すること百箇所以上にも及んで居る。それらは一定の受持區域の住民に對して、圖書の館外貸出を行ふために設けられて居るのだ。それ許りでは尙不便だと云つて、圖書自動車 (Book-wagon) が考へ出された。車内に書棚を設け之に圖書を収載して、一定の巡回路を配給し歩くのである。謂はゞ『移動圖書館』であらうか。往年貸本屋なるものがあつたが、それを近代化したものが、かうした配本所や圖書自動車であると云はれやう。以て歐米の圖書館が讀書の普及徹底に對する熱意と苦心の程も窺はれる譯であらう。

米國クリーブランド市は人口百萬と云ふ事であるが、その地の公共圖書館では

一年間の館外貸出圖書は、六百萬冊以上に上るさうである。さすれば全市民に對し、六冊強が貸出される事になる。又デイトン市の圖書館での圖書自動車は六百の圖書と、雜誌百餘種を積んで一週一回、三十六箇所の駐車所を巡つて居るさうだ。それが一箇年の貸出總數一萬冊に及ぶとやら。いかによく彼の諸地方に於ける圖書の利用がなされて居るか。又いかによく一般社會は圖書館を利用して居る事か。思ふだけでも羨望の限りである。

かやうに圖書の運轉が頻繁なので、貸出事務にしても緩漫を許さない。かうした圖書館事務が敏捷第一となるのは自然の勢ひと云はねばならぬ。従つて漸次機械化されて行くのは、近代圖書館の一大傾向なのである。例へば貸出事務に就て云ふと、是迄種々な方法が用ゐられて來たが、その代表的なものに於ては、こんな具合になつて居る。豫め登録者に下附してある讀者カード、圖書館の藏書の各冊に貼付してある日附票、及び附帶の圖書カードの三種のものを用ひた。之に依つて借出人では返却の月日が明示されて居ると共に、圖書館の方では帶出者の姓名

返済期やその他が明瞭になつて居る。かうして必要に應じ、係員が記入したり、ムや印を捺したりすることになつて居るのだが、誤記などを免れない。この難點を一掃せしめるに、自動圖書貸出機が發明された。之に依ると日附も番號も凡て機械的に運ぶことが出来る。それで間違ひは起らないし、時間の經濟も一通りでない。

かく圖書館利用率の増大と共に、次第に圖書館が特殊化する事も必然的のものと云はねばなるまい。或は市設圖書館とか、工業圖書館とか、乃至は音樂圖書館と云つた風に、夫々の部面に於て専門的な圖書の蒐集利用が行はれて來た。わが國でも既にこの傾向は見えて居るし、將來この傾きは益々擴大して行くであらう。その構造や設備も次第に夫に従つて、變改して行くであらう事も想像に難くない。構造の事を云ふと、一言エール大學の圖書館に就て述べておかねばならぬ。最近までの設計法は、書庫を全建築の中央におき、外側は閱覽室其他に充て、暗黒の書架も已むを得ないとして居た。つまり書庫中心主義であつた。ところがエール大

學に於ては、之を改革して中央に書庫塔の高いのを建てた。これが圖書收藏保管の場所である。塔の高さ二十五間、書架は十六階に及んで居る。延長七十五哩、三百萬の圖書が收藏出来るのださうである。嶄新放膽な試みとして記すに足るであらうか。こゝに於ては只歐米圖書館當事者の熱意の程と新しき傾向の一端を記す事に止めやう。

(註—毛利宮彦氏の「各國圖書館事業の新施設」國際パンフレット第八〇四號所載)

圖書館記(完)

昭和十一年二月三日印刷
昭和十一年二月八日發行

非賣品

發行所

東京市神田區三崎町二ノ一

日本大學出版部

代表者 龜川德一

東京市小石川區久堅町一〇八番地

印刷所

共同印刷株式會社

代表者 君島深